

ゾラム

といふのは、民衆に對して何とか辯解しなけりやならん身になつてお出でだからです。自身の思ひ立でなく、願望でなく、胸に聞けば私生兒同然の心にもない偽りをば、いはゞ暗誦しといて、只舌の先で述べんけりやならん身の上になつてお出でだからです。さア、それをお前さんがしたからとて、甘言を以て敵城を陥れるのと、どちらがつかともなければ、どう不名譽になる筈もない。危い戦をして夥しく血を流さねばならん場合に、若しさうせねば自身も親友もみんな破滅となるやうなら、それが不名譽とならん限り、わしは本性にたがつかつたことをもいひます。わしはこれを嫁に代り、孫に代り、こゝに御座る元老がたや貴族がたに代つていひます。それなのに、お前は、只もうあの愚民どもに怖い顔ばかり見せなさる、ほんの一寸追従をいへば、あいつらの好意を得て、あやふく破壊されるものを安全にすることが出来るものを。

メニ、

全くその通りです！……さ、一しよにお出でなすつて、懇ろにお談じなさい。さうすりや現在の危険を除くと同時に、過去の損失まで取返すことが出来ます。

ゾラム

なう、お前さん、さ、出かけなさい、此帽子を持つて。さうしてこんな風に屈んで……機嫌を取るんだ……膝が敷石にくつつくらぬに。かういふ事には身振が一ち雄辯です、無學者の目は耳よりも機敏に働くからね……頭を斯う……幾度もべこつかせると、お前のその剛岸な、逞しい心もおとなしうなつて、熟み切つた桑の實のやうに、持扱はれん程柔かうなります。又は、「わしは君たちの兵士だ。だから常住軍にばかり出てゐて辭令が下手だ」とおいひなさい。「けれども諸君に好意を願ふには、それが必要でもあり、又それを要求なさるのも尤もだから、以後は諸君の爲に、身の限り、力の限り、性來を矯め直すことに力めます」とおいひなさい。

メニ、 御母堂のおつしやる通りになさりさへすりや、奴らの心はあなたのものだ。折れて出りや、奴らは、すぐ「赦す」といひますよ、無意義な語でも吐き出すやうに。

ブラム さ、さ、どうぞさうして下さい。お前としては、敵に花の蔭で追従なんかいふよりは、奴らを追ッかけて渦巻く火の淵へでも飛び込みたからうけれど。

コミニヤス 出る。

お、コミニヤスどのが見えた。

コミニ 今まで市場にゐましたが、いやもう、火のやうに猛り立つてゐるから、身方を募つて強硬に戦ふか、穏和な手段で防ぐか、でなけりや身を隠しなざるより外にしやうはない。

メニ、 懇ろに談じて見るに限ります。

コミニ そりや役に立ちませう、コリオレーナス君が其氣になられさへすれば。

ブラム ならねばなりませんし、なりませう。なう、さうしようとおいひなさい、さうしてすぐ實行なさい。

コリオ ぢや、わたしは此素頭をあいつらに見せんけりやならんのですか？ 卑屈な舌を叩いて、此立派な心に虚言者といふ極印を負はせなけりやならんのですか？……よろしい。やりませう。けれども、失するそれは、只一摘みの土塊同然の、此マーシヤスといふ人型にもしろ、あいつらに粉微塵に踏みにじられて、風に向つて投げ飛ばされるかと思ふと！ さ、市場へ！

コミニ さ、さ、そこは如才なく、うしろから附けることにするよ。

ブラム なう、倅、頼みますぞ。お前が武人になつたのはわしが褒めたからであつたとおいひだつつけが、今日も褒めますから、つひぞ勤めたことのない此

役目を、どうぞうまく爲遂げて下さい。

コリオ

よろしい。しかたがない。おれの氣質なんかア、どつかへ去ッちまへ！

どこかの娼婦の魂でもおれに憑移れ！ 陣太鼓に調和するおれの太い聲

よ、閨官の細い聲か、嬰兒を寝す小女郎の聲かに變ッちまへ！ おれの頬

邊には悪漢の空笑ひを、おれの目には小僧ツ子の涙を、おれの唇には乞

食の舌を働かせてくれ！ 此脛甲をした、鎧に乗る時の外は、曲げたこと

のなかつた膝ツ節を、餘り物を貰ふ奴のやうに、こんな風に曲らせてく

れ！……うんにや、いやだ。そんなことをすりや、自分で誠實をないがし

ろにするんだ、自分で自分の心に抜くことの出来ん卑劣卑屈を教へるん

だ。

ブラム

ちや、勝手になさい。お前に強ひてそれを頼むのは、お前が平民どもに頼む以上のわしの恥です。さ、さ、何もかも滅茶々々にしておしまひ。わし

はお前に見識を立てさせたい、お前の剛情から危険の生ずるのを恐れるよりも。わしは、お前同様、死ぬのを何とも思ひません。好きなやうになさい。その勇敢な根性はわしの遺傳だ、わしから吸ひ取つたのだ。いや、見識をおツ張りなさい。

と席を去らうとする。

コリオ

まあ、さう怒らないで下さい。阿母さん、わたしは市場へ往きますよ。もう

叱らないで下さい。奴らを何とかごちやまかして、好意を寄せて、みんなに最肩にされるやうになつて歸つて来ますよ……そら、この通り出掛

けますよ。妻へよろしくいつて下さい。執政官になつて戻りますよ。若

しさうしなかつたら、わたしの舌は到底追従にや向かないと思つて下さ

い。

心のままになさい。

ブラム

心のままになさい。

ゾラムニヤ 入る。

コミニ さ、往きませう！ 保民官どもが待つてゐる。成るべく穩かにね。奴ら

は在來以上の手強い彈劾をしようと思氣込んでゐるのだから。

コリオ 「穩かに」といふのですね。さ、往きませう。どんなにも工夫して彈劾しや

がるが、こちらは名譽を踏まへて返答をするまでだ。

メニ、 だが、穩かにね。

コリオ ひゝ。ぢや、穩かにやらうよ。穩かに。

入る。

第三場 同前 公演臺

シ、ニヤスとアルーダスと出る。

ブルー 此際、あくまでもお攻めなさるが、奴が專權を揮はんとしたことを。

若しもそれを言ひ抜けたら、「民衆を憎むのは、どうだ？」とお言ひなさい。それからアンチャム人から獲た戦利品を分配せなかつたのをお責めなさい。

警保官 出ス。

え、來ますか？

警 只今まわります。

ブルー だれが一しよに來ます？

警 老メニ、ヤスと、それから平素あの仁と仲のよい元老連が來ます。

シ、ニ めいゝが自署した選舉者名簿を御持參ですか？

警 はい、持つてきます。

シ、ニ 種族別になつてますか？

警 はい。

シ、ニ　すぐにこゝへ民衆を集まらせて下さい。さうしてわたしが「平民の権利によつて、これは云々であらねばならん」といつたなら、それが死刑、罰金、乃至追放、何であらうと、賛成させて下さい。わたしが罰金といつたら、「罰金」、死刑といつたら「死刑」といはせて下さい、あくまでも彼等に正當な法理上の権力を主張させて下さい。

警　さう申し附けませう。

ブルー　それから怒鳴りはじめた以上、止めないで、すぐに其宣告を勵行するやうに、猛烈に騒がせて下さい。

警　承知しました。

シ、ニ　手強くやらせて下さい。わたしたちがきツかけを與へたら、それを脱させないやうにして下さい。

ブルー　すぐ着手して下さい。

警 保官入る。

まづ怒らせることだ。勝つことにはかり慣れ、人にぶツつかつて、いつも我儘を通して來た男だ。怒つたりといふと、それを自制することの出來ない男だ。だから、心に思つた通りを口へ出す。そこへ巧く乗ずりや、忽ち奴の頸根ツ子を折ることが出来る。

コリオレーナスを先きに、メニ、ヤス、コミニヤス、其他の元老ら、貴族ら出る。

シ、ニ　む、やつて來た。

メニ、　（コリオレーナスに）　ねえ、どうか、おとなしやかにね。

コリオ　うん、馬丁のやうにね。端下錢を貰やア、山ほどの悪口をも平氣で受けてゐる馬丁のやうにね。…神々よ、羅馬を護らせたまへ！　ひとり良判官をして裁判の椅子に坐せしめたまへ！　われらの間には冷く愛を植ゑ、

あらゆる大神殿に於て平和の祭儀を執行せしめたまへ！ 羅馬を戦亂の
巷たらしめたまふな！

元一 アーメン！ アーメン！

メニ、立派な御祈禱です。

警保官先きに群民出る。

シ、ニ (群民に) さ、さ、こつちへへ。

警 保民官たちのいはれることをお聴きなさい。諸君、しづかに！

コリオ いや、まづ、わたしのいふことをお聴きなさい。

兩保 よろしい。おいひなさい。…しイッ！

コリオ (保民官らに) わたしの一切の責任はこゝで悉く解決に及ぶのかね？ 何も

シ、ニ かも決ツちまふのかい？

手前は、此際、あなたが民衆の権利を重んじ、彼等が推戴した役員を承認

し、只今提出に及ぶあなたに對する彈劾簡條を穩かに聴取されんことを要
望します。

コリオ よろしい。

メニ、おい、市民たち、當人はよろしいといつてをられる。あの仁が國の爲に盡

した戦功を考へなさい。あの身體に受けてをられる寺院の墓穴のやうな

古創のことを思ひなさい。

コリオ (獨語的に、苦々しげに) 荆棘で引ッ搔いた創だ。たか々笑ひ草だ。

メニ、それから、若し彼れの口吻が市民らしくしないなら、それは武人だからと

思ひなさい。言葉が粗いのを惡意だと思ひなさんな。それは君たちを

憎んでゐる爲ぢやアない、今いふ通り、武人らしい男だからだ。

コミニ (メニ、ヤスに) まあ、まあ、もうおよしなさい。

コリオ (保民官らに) 一體どうしたのだ、衆議一致で執政官に選んでおきながら、す

シ、ニ ぐ又それを剝奪しておれに恥辱を與へるていのは？
詰問にお答へなさい。

コリオ いふがい。答辯する義務はある。

シ、ニ あなたは羅馬市民から由緒ある職務を剝奪して、自分一人の手に専制權を握らうとなすつた、それは取りも直さず、民衆に對しての反逆です。

コリオ なに？ 反逆だ？

メニ、 まア、靜かに！ 約束々々。

コリオ (火のやうになつて) 地獄のどん底の火に包まれてしまやアがれ、おれを反逆だなどといふ奴らは！ やい、無禮千萬な保民官め！ 汝の眼中に二百萬の死が横たはり、汝の手の中に更に百萬のそれが掌握され、おまけに其大虚言者の舌の根に、更に數百萬の死が存在してゐようとも、おれは汝に向つて、「うそをつけ！」と怒鳴りつけてくれる、神々に祈る時と同じ聲で、平

氣で怒鳴りつけてくれるぞ。

シ、ニ (群民に) 諸君、あれをお聞きなさい！

群民 (一齊に) それ、岩へ引ツ立てろ、岩へ！

シ、ニ (制して) しづかに！ もう新たに罪狀を附加する必要はない。彼れのする

事を見、いふ事を聞かれた以上、諸君を惡口し、役員を打擲し、腕力で國法に反抗し、糾彈權を有つてゐるわれ〜にさへ喧嘩を吹掛けるのを見られた以上、もうそれで以て罪科は決つてゐます、死刑相當の重罪です。

ブルー ですが、羅馬の爲には功勞のあつた男だから…

コリオ (輕蔑の口吻で) ヘッ！ なぜ功勞なんてことをお前がいふのだ？

ブルー 心得てるからいふのです。

コリオ え、お前が？

メニ、 (とめて) おつかさんに約束なすつたぢやないか？

コミニ まア、まア、お聞きなさい。……

コリオ いや、もう聞くにや及ばん。……さ、宣告しろ、ターペイヤ岩からの突落しなり、無期の追放なり、皮剥ぎなり、なし崩しの牢責めなり、何になりと宣告しろ、一言だつて甘口なことをいつて、あいつらの憐愍を買ふものかい！「お早う！」といひさへすりや、妥協するといやアがつたつて、此態度を變へるものかい！

シ、ニ (群民に) 彼れは、儘にさせておけば、常に民衆に敵意を抱いて、其權力を奪ひ取らうとします。現にあの通り反抗を試み、正義公道をないがしろにするのみならず、其判官たる者をも侮蔑する以上、われは保民官たるの權力を以て、即刻彼れを追放の刑に處し、以後若し羅馬市内に入込むに於ては、容赦なくターペイヤ岩から突き落します。右は民衆の名に於て、勵行せらるべきです。

群民

賛成々々！ それ、あいつを引ッ立てろ！ 追放だ！ 追放しろ、追放しろ！

コミニ まア、待ちなさい。平民たち、まア、

シ、ニ もう宣言は済んだ。もう何も聞く必要はありません。

コミニ まア、一言いはせて下さい。わたしは、この此間まで執政官を勤めてゐた。國の爲に蒙つた創痕を諸君に見せることの出来る者だ。わたしは國家を自分の命よりも、愛する妻よりも、妻の胎から生れた自分の分身の子寶よりも、もつと大切に思つて、いたはり愛してゐる。だから、わたしの言はんと欲することは……

シ、ニ 大概わかつてゐる。何をいほうといふのです？

ブルー もう何もあらう筈はない。民衆及び國家の敵として追放したんだ。もうそれでいゝのだ。

群民 さうだ。それでいゝのだく。

コリオ

(激昂して) やい、やくざな野良犬どもめ! 汝らの息は腐れ沼の蒸發氣よりもたまらない。汝らに好かれるのは、空気を腐敗させる爛れた死人の悪臭に取附かれるやうなもんだ。汝らは此方から追放してくれ。いつまでも爰に不安な心持で住んでろ。ちよつとした飛語流言が聞えて來るたびに、おびえやアがれ! 敵の羽飾がひらめくたびに、其膽ツ玉を冷えあがらせろ! いざといふ間際まで心附かずに、うぬが防禦者を追放する權力を有つてろ、今に剩すところ只汝らばかりとなつて、われとわが身を陥れ、只の一戦にも及ばず、淺ましい捕虜となつて、どこかの敵國へ引渡されることになるから! 汝らのをる此市を賤み見つゝ、おれは斯う背を向ける。世界はまだ外にある。

コリオレーナス 傲然として入る。 コミニヤス、メニ、ヤス、元老及び

貴族らも従いて入る。

群民は一齊に歡呼喝采して、手々に帽子を投げあげる。

警 あゝ、民衆の敵は、とうくいつちまつた〜!

群民 われ〜の敵は追放されツちまつた。 奴め、とうくゝゐなくなつた! ほ

う! ほう!

シ、ニ あいつが市門から出て行くのを、尾いていつて、奴が君たちに向つてした

やうに、さんく〜嘲弄しておやりなさい。當然の懲罰として苦しめてや

るがいゝ。わたしが市内を通る間護衛を附けて下さい。

群民 さ、さ、奴が市門から出てゆくのを、見てやらうぜ。…神々よ、兩保民官ど

のをお護り下さい。…さ、ゆかう〜。

入る。

*

*

*

*

*

第四幕

第一場 羅馬 市門の前

コリオレーナス、其母、グラムニヤ、其妻、グーシリヤ、メニ、ヤス、コミニヤス
らを先きに、羅馬の青年貴族ら出る。

コリオ さ、泣くのはおよしなさい。 さよなら。…頭の幾つもある野獸めがおれ
を突き出しやアがる。…ねえ、おつかさん、どこへやつたんです昔の勇氣
を？ あなたは、始終、窮境は膽力の試験石だといつてたちやありません
か？ 平凡な災厄は平凡な人間でも忍び得る、海が和ぎの時には、どの船

の船頭も同じやうに漕ぎ廻つてゐるが、運命の最大打撃を蒙つて負傷しな
がら、泰然自若としてゐるには高い人格を要する。 あなたは始終さうい
ふ金言をわたしの心に注ぎ込んで、それを覚え込ませて、金鐵のやうな堅
固な膽ツ玉にしようとなすつたちやありませんか？

グーシ (手を振振りつゝ天を仰いで) おゝ、天の神々よ！ おゝ、天の神々よ！

コリオ (グーシリヤに) おい、もうよしてくれ。おい。…

グラム (半狂亂の體で) もう此上は、赤い時疫よ、此羅馬中のあらゆる職業にとつ
いて、あいつらを滅してしまつてくれ！

コリオ おい！ おい！ おなくなりや、わたしだつて可愛がられます
よ。 これさ、おつかさん、勇氣を回復なさい。 そら、あなたがよく言つた
でせう、若しあなたがハークユリーズの奥方であつたら、彼れの難事業の六
ヶ條だけはあなたが手傳つて、夫にあゝ汗を絞らせやしないッて、あの時

分の勇氣を回復なさいよ。……コミニヤスさん、さう萎れツちまつちや困るよ。御機嫌よう。……(サーヅリヤに)はい、さよなら!……(ヲラムニヤに)おつかさん! まだく大丈夫ですよ。……(泣いてゐるメニ、ヤスに)おい、メニニヤス、忠實な阿爺さん、君の涙は若い手合のより鹽ツばいから、目に毒だよ。……(コミニヤスに)あなたはわたしの大將だつた人だ。随分こはい顔もしてゐた人だ、心は無感覺に慣れさせる惨い見せ物をも観て来た人だ。泣いてる女連に、どうすることも出来ん災厄を歎くのは、それを面白がるのと同様に、馬鹿なこつたと教へてやつて下さい。……(ヲラムニヤに)わたし厄難は、いつもあなたの慰藉だつたぢやありませんか? ね、信じて下さい、たとひわたしは、孤獨な蚊のやうに、暫く沼中へ身を隠しますけれども、それは、目のあたり見られるよりも、却つて怖れられ、噂される所以ですから、卑怯な畏にでも懸かつて騙し討にされん以上、あなたの息子は

今に非凡な働きをして見せますよ。

ヲラム

(涙をおさへて) わしの第一の倅よ、お前はどこへ往かうといふのだ? とにかく當分はコミニヤスさんと一しよにゐなさい。何とか方針をきめたがい、先でどういふことが起るにしろ、行きなり次第にするのは危いから。

コリオ

(天を仰いで) お、神々よ!

コミニ

向う一ヶ月の間は君に尾いていつて、御相談の上で、どこかに君の安息地をきめませう、われ々の動靜を君に知らせるにも、又君のをわれわれが知るにも都合のいゝ處を工夫しよう。さうすりや、君を呼び返す機會が来た時、廣い世界へ、たつた一人を探すために、大勢の使ひを出したりして好機會を逸す愚をしないで済むから。好機會で奴は其當人がゐないと、忽ち冷却する虞れがある。

コリオ

(コミニヤスに) 御機嫌よう。君はもう大分年を取つてをられる。君は、無

傷の若い者と共に放浪するには、もう既に戦争に食傷し過ぎてる人だ。
 市門を出るまで、別れて下さい。……(妻に)さ、さ、お前も。……(母に)おつか
 さんも。(皆々に)多年親交の若い諸君も、わたしが出ツちまつたら、さよなら
 といつて、笑つて下さい。ねえ、どうか。地上に乗つてゐる以上、絶えず
 便りをしますよ、従來のわたしらしくないやうな便りは、大丈夫、聞かせや
 しないよ。

メニ、
 さうあつてこそ誰れが聞いても立派な便りだ。……さ、さ、泣くのはよしま
 せう。……此年を取つた腕や脛から七年の星霜を振り落してしまふことが
 出来りや、誓つて、一步も離れないで、ついて行くんだのになア。
 コリオ
 手をお出さない。(と握手して) さ、さ、さ。
 左右へ別れて入る。

第二場 同處。市門に近き街頭。

兩保民官のシ、ニヤスとアルータスとが警保官を伴つて出る。

シ、ニ
 (警保官に) みんなを引取らせなさい。あいつが往ツちまつた以上、もうこ
 れでよろしい。……あいつの肩を持つた貴族連は弱り切つてゐる。

ブルー
 こつちの権力を十分見せつけてやつた。此上は前よりも却つて謙遜にし
 よう。

シ、ニ
 (警保官に) 引取らせて下さい。大敵がなくなつたから、古法通りの権力
 が彼等の手に復つたぞとさういつてやつて下さい。

ブルー
 引取らせて下さい。
 警保官入る。向うを見て
 あそこへ彼れの老母が来た。

ブラムニヤ、グーヅリヤ及びメニ、ヤス出る。

シ、ニ 逢はんやうにしよう。

ブルー なぜ?

シ、ニ あの女は氣がらがつてゐるといふから。

ブルー あゝ、もう見附けたらしい。かまはずお進みなさい。

ブラム (三人を見て) おゝ、よいところで逢ひましたぞ。(怒り聲で) 神々がお貯への

あらゆる疫病、お前らに降りかゝれ、其深切の返報に!

メニ、 (制して) ま、しづかに! そんな大きな聲をなさるな。

ブラム 涙で此聲が潰れなんたら、存分お前らに……いゝや、是非いはにやならん。

このうち兩保民官は聞流して通り抜けようとする。ブラムニヤは躍起となつて先に立つたブルータスを睨んで

逃げるのか?

ワージ (つゞいて往きかけたシ、ニヤスに) あなたもおとゞまりなさい。……(横を向いて) あ

あ、夫に向つてさういへたら、嘸嬉しからうに。

シ、ニ (怒り猛ろブラムニヤを呆れて見返つて) あなたは男か?

ブラム 阿呆、それが恥にでもなるか? これ、よく聞け、阿呆、わしの父も男であ

つたぞ! 汝は狐か、女狐かよ? 汝が舌を叩いた度数以上に羅馬の爲

に外敵を叩き切つた其功勞者を逐ひ出すとは?

シ、ニ (ますく呆れて) やれく!

ブラム 汝が名言を吐いた度数よりも、彼れが羅馬の爲に軍功を立てた度数のはう

が多いぞよ。其わけを言つて聞かさう。いや、往けく。いんにや、動

くな。聞け。あゝ、今、倅がアラビヤの沙漠にゐて、よく切れる劍を持つ

てゐて、さうして汝らが其鼻の前にゐればいゝのに!

シ、ニ さうしたらどうだといふのです?

ウージ さうしたらどうだツて？ 夫がお前さんたちの血統をば絶つてしまふでせう。

ゾラム 私生兒野郎めら！ (泣き聲になつて) 國のためにあんなに傷を受けてゐる立派な男を！ (と怒り泣きに泣く)。

メニニ まア、しづかに！

シニニ (もてあましてわざと穩かに) わたしたちも、その通り國家の爲に盡して下すつたらと思ふのです。名譽の結び目をわれとわが手で解すやうなことをなさらなけりやよかつたのに。

ブルー わたしもさう思ふ。

ゾラム なに、「わたしもさう思ふ」？ あの愚民どもを、あの野良猫どもを煽動したのはお前たちぢやないか？ わしに天機が解らんと同様に、倅の價値なんかは皆目解らんあの野良猫どもを煽動したのは！

ブルー (弱り果て) もう歸らせて下さい。

ゾラム さア、さつきとお歸り。立派な事をしましたよ、お前たちは。いや、往く前に、もう一言聞きなさい。……大神殿が羅馬の最下等の建物よりも貴いと同じ程度に、お前らの追放したわしの倅は、いゝかい、こゝにゐる此婦人の夫は、お前から残らずよりも、ずつと〜貴いのだ。

ブルー なるほど〜。さよなら。

シニニ 氣ちがひ犬の敵手になつてゐる必要はない。
二人そこ〜に入る。

ゾラム おれの呪ひを負つてけ！ あゝ、神々たちがおれの此呪ひを叶へることにばかり骨を折つて下さればいゝになア！ 若し一日に一度づゝあいつらに逢ふことが出来りや、此胸のむしやくしやが幾らかは晴れるだらう。
メニニ みつしりいつておやんなすつた。いや、御道理だ。さ、夕食をめしあが

れ、わたしの宅で。

ヨラム 腹が立つので、胸が一ぱいです。かうして自分を食つて、今に飢え死をするであらう。さ、往きませう。(ブーシリヤを顧みて) えい、めそくと泣くのはおよし。泣くなら、わしのやうに、怒つてお泣き、天妃神さんのやうに。さ、さ、さ。

ヨラムニヤとブーシリヤと入る。

メニ (見送つて、歎息して) やれ〜!

第三場 羅馬とアンチャムとの間の公道。

羅馬人とブルサイ人とが左右から出て来て逢ふ。

わたしもあなたを知つてるし、あなたもわたしを知つてるだらう。あな

たはアドリヤンさんでせう。

ブル さうです。わたしはあなたを忘れツちまつた。

わたしは羅馬人だが、役目はあなたとおなじで、羅馬人をやっつけようてんです。まだ解りませんか?

ブル ニカノア君? ぢやないですか?

羅 ニカノアです。

ブル 先だつて會つた時よりや髭が多くなつたもんだから。だが、聲の調子で解りました。羅馬の模様はどんなです? 實はあなたを探せといふ命令書を政府から受取つて來たのです。測らずお目にかゝつて、一日分だけ足が助かりました。

羅 羅馬にや妙な内証がありましたよ。平民が元老や貴族や紳士連に反抗したのでした。

ゾル でしたとおつしやるね？ ぢや、もう治まッちまつたんですか？ わたしの國の政府は、まだ最中だと思つて、目下盛んに軍備をして、其内亂中に政め込まうとしてゐるのです。

羅 火元はもう鎮まつたのですが、ちよつと掻き立てりや、またすぐ燃えあがりませう。紳士連はあの英傑のコリオレーナスを追放したのを酷く憤つて、今にも平民連の權力を剝奪して、保民官なんざ永久に根こじにしッちまはうと目論んでゐますから。さういふ陰謀が今現に燻り返つてゐて、すぐにも爆發しようとしてゐます。

ゾル コリオレーナスが追放されましたつて？

羅 はい、追放されました。

ゾル ニカノア君、あなたの其知らせは、國の者にや大受けですぞ。

羅 時運到來です、お國の人たちの爲にや。人の妻をごまかすなら、夫と仲た



ゾル がひをしてる時に限るツて話がありませア。タラス・オーフィディヤスさんが、今度の戦ぢや幅を利かせませう、大敵のコリオレーナスがもう國の者に捨てられたんですから。

ゾル きつとさういふことになりませうよ。いや、大仕合だつた、思ひがけなくお目にかゝつて。もうこれで用は濟んだ。御一しよに愉快に國へ歸りませう。

羅 これから夜食までに、いろんな不思議な羅馬の模様をお話ませう。

ゾル お國のために有利なことばかりです。軍備はもう整つてますツて？ 立派に整つてます。百人組も其部下の者たちも、それ〴〵部署を定め

て、もう既に動員に及んで、一時間前に令が下りや、すぐに出発するやうになつてゐます。

羅 それほど準備が出来てりや結構です。ちや、わたしが報告すりや、すぐにも活動が始まるんでせう。ほんとに、いゝところでお目にかゝりました。御一しよに参るのを大慶に存じます。

ブル そりやこつちから申すことです。手前こそお伴をするのを大慶に存じます。

羅 では、御一しよにまゐりませう。
入る。

第四場 アンチャム。オフィデヤスの宅の前。

コリオレーナスが卑賤な假裝姿で出る。汚れた汚くるしい外

衣を頭からすつぽりと被つてゐる。

コリオ いゝ市だ此アンチャムは。…アンチャムよ、汝のところに大勢の後家をこしらへたのはおれだ。戦争前には、此莊麗な家々の戸主であつた奴らが、戦場で手を負つて呻き死をするのをおれは見た。ちや、おれを見附けるなよ、後家どもや餓鬼どもが、おれを敵だといつて、鐵串や石で以てせゝり殺しかねないから。

一市民出る。

や、御機嫌よう！

市民 (不審さうに) 君にも。

コリオ 御深切があるなら、オフィデヤスさんは今どこにおいでなさるか、知らせて下さい。この市にござるんですか？

市民 はい、さうです。今夜はお宅で顯官たちを御饗應なさる筈です。

コリオ お宅は、どの邊です？

市民 こゝです、あなたのすぐ前です。

コリオ ありがたうございます。 さよなら。

市民 入る。

おゝ、變り易い世の中よ！ 共に莫逆を誓つて、胸は一つ、心は一つとも見えた親友が、時をも寢床をも食事をも遊戯をも一つにして、終生離れることの出来ん生れながらの戀の學子で、もあつたかのやうな親友が、鏝一つの争ひから、即時に、共に天を戴くことの出来ん敵となることもある。それと同じに、猛烈に憎み合つてゐた敵どしが、どうかしてしとめたいと、互ひに枕を掻き、眼を絶ち、修羅を燃やしやつてゐた敵どしが、鶏卵一つほどの手土産で刎頭の友となつて、其子供らを結婚させることもある。おれがそれだ。生れ故郷が憎くツて敵の市がなつかしい。……入つてくれう。

奴がおれを殺したつて、無理だとはいへんが、若しおれのいふ通りにすりや、おれは奴のために働いてくれよう。

入る。

第五場 同處。 オーフイディヤスの宅の客間。

家一 おい、酒だ！ 何て御奉公振だ？ 奴らアみんな眠込んでゐやがるのか！

音楽が聞える。 家僕の二が出る。

家二 コータスめはどこへいつたか知らん、旦那が呼んでるのに。……コータス！

呼びながら入る。

コリオレーナス、前の場の假装のまゝで出る。

コリオ 立派な家だ。旨さうな香がする。(自分の装を見て)が、おれは客らしくも見えない。

家僕の二が又出る。

家一 (不審さうにコリオレーナスを見て)お前さんは何しに來なすつたんです? どこから來なすつた? こゝへ來ちやいけませんねえ。あつちへ往つて下さいよ。

いひすてゝ入る。

コリオ かういふ待遇を受けるのは當然だ。コリオレーナス(コライオライの征服者)といふ綽號を有つてゐるおれだもの。

家僕の二が出る。

家二

(不審さうにながめて)どこから來なすつた、お前さんは? …門番め、頭に目があるか知ら、こんな男を通すてのは? …ねえ、出てつて下さい。

コリオ

(睨みつけて)えい、去ツちまへ!

家二

(驚いて)「去ツちまへ!」お前さんこそ去ツちまへだ。

コリオ

えい、うるさい!

家二

おや、えらい權幕だね! おや、今に談じ附けてくれるぞ。

と奥へ行きかける。此時家僕の三が出る。家僕の二と行き逢ふ。

家三

あの男は何だい?

家二

わッしはあんな變な男はつひぞ見たことがない。出ていけつても出ていかない。旦那をこゝへお呼びして下さい。

家僕の二は後方へ退る。

家三 (コリオレーナスに) お前さんは茲こゝに何なんの用ようがあるんだい? 出でてつておくん
なさいよ。

コリオ こゝに立たたせておいてくれ。何なにも邪魔じゃまはしない。

家三 一體たい何なんだ、お前まへさんは?

コリオ 紳士しんしだ。

家三 おツそろしい見みすばらしい紳士しんしだね。

コリオ 全まったく。

家三 見みすばらしい紳士しんしさん、ねえ、どこか外ほかで立たつてなさいよ。こゝはいけな
いから。ねえ、出でてつて下ください。さ。

押おし出たさうとする。

コリオ えい! うぬが職務しよくむさう相應おうに、食くひあましても突つ食ついてろ!

と突つきのける。

家三 (呆だれて) え、出でていかない? (家僕かぼくの二を見返みかへり) ねえ、君きみ、旦那たんなにさういつてく
れたまへ、變へん妙めう來らいなお客きやくが來きてゐるツて。

家二 ぢや、さういはう。

家僕かぼくの二入はいる。

家三 (コリオレーナスに) 君きみはどこに住すんでるんだ?

コリオ 天蓋てんがいの下したに。

家三 天蓋てんがいの下したに?

コリオ うん。

家三 そりや何處どこなんです?

コリオ 鳶とびや鴉からすの市まちだ。

家三 鳶とびや鴉からすの市まちだ? ヘツ、馬鹿ばか々々くしい! ぢや、阿呆鴉あほうからすとも御同居ごどうきよかね?

コリオ うんにや、汝きさまの主人しゆじんなんか奉公ほうこうしちやをらんよ俺おれは。

家三 何だど？ 邸の旦那に指でもさうといふのか？

コリオ 妻女に手を出すよりは、家來としては、まだしも其はうが正當だ。……べらべらと贅口を叩くな。膳碗の始末をしろ。あッちへ行け！

と手ひどく叩きのける。家僕の三驚いて逃げて入る。
家僕の二をつれてオーフィデヤスが出る。

オーフ そいつは何處にゐる？

家二 あそこにゐます。奥のお客様がたへの遠慮がなけりや、犬同様に撲ちのめしてくれたいと思ひましたのですが。

といひすて、後方へ退る。

オーフ (コリオレーナスに) お前はどこから來た？ 何ぞ用か？ お前の名は？ 何

故返辭をしない？ おい、こら！ 何といふ名だ？

コリオ (かぶつてぬた外衣を脱いで) おい、タラス、顔を見ても、まだおれがだれだてこと



が分らんけりや、自分で名宣るより外に爲様がない。

オーフ たれだ君は？ 何といふ名だ？

コリオ ギルサイ人には餘り音樂的には聞えない名だ。君の耳障りだらう。

オーフ おい、名をいひなさい。……凄い顔附をしてゐて、何處となく威嚴がある。綱具はぼろくだが、立派な軍艦とも見える。……君の名は何とい

ふのだ？

コリオ 眉を八の字にする準備をしな。まだ分らんかい？

オーフ わからん。だれだ？

コリオ

おれはケイヤス・マーシヤスだ。おれは特に君に對して、又ザルサイ人全體に對しても、随分大きな損害を與へた。其證據が綽號のコリオレーナスだ。國の爲にさんぐ身を苦しめて、極端の危険をも冒し、血をも流したが、其報いに貰つたのは、只此綽號ばかりだ。君に怨まれ憎まれる好い記念とも證據ともなる其異名が残つてゐるばかりだ。意氣地なしの貴族どもが俺を見すて、殘忍非道な平民めらのするまゝに、俺の一切がつさいをふん奪つた上に、阿呆拂ひにさせやアがつた。そこで、進退谷つて、ついお前のところへやつて來たのだ。が、誤解しちやいかんよ、それは命が助かりたい爲ちやアない。よしんば死にともないにもしろ、人にもよ

れ、俺がお前に命乞ひをする筈はないからなう。いや、おれを追放しやがつた憎い奴らに返報がしたいばかりにやつて來たんだ。若しお前に復讐の念があつて、自分の怨みを晴らすと共に、現に生々と残つてゐる國の辱を雪がうといふ志があるなら、此みじめな俺の境遇を利用するがよい。復讐のために一働きしようとしてゐる俺をお前の用に立てるがよい。おれはあの腐り爛れた本國を對手にすりや、地獄の惡鬼が荒れ出したやうに戦つて見せる。けれども若しお前が「もうさういふことはようせん。もう逆も運命を賭して一か八かを試みる勇氣はない」といやア、おれも最早生きてるのが厭だ。此喉を舊敵のお前の前へ曝け出すから、斫つてくれ。それをお前が斫らんなら、大馬鹿だ。何故なら、おれはお前を憎み抜いて、後を附け廻つて、お前の國の心元から血の十樽も絞取り取つた男だから生きて、お前の爲に働かなけりや、お前に恥をかゝさんぢやおかん男

だからね。

オーフ
 (感激して) おゝ、マーシヤス！ マーシヤス！ 君の一言々々がおれの胸から
 古い怨を根こじにしてしまつた。たとひ天神があゝの雲の中から神聖な
 聲で「これは事實だぞ」といつたからつて、それをおれは君の言葉以上には
 信じないだらう、眞に英傑と稱すべきマーシヤス！(そばへ走りよつて)おれの
 腕を其體へ絡みつかせてくれ。(と抱擁して)此體をたつた一突にしてくれ
 ようと思つて、何度瘤々だらけのおれの投槍をぶち折つて、其破片で月を
 怪我させたか分らん。こゝに斯うおれの劍の鐵床をひん抱へて、嘗て功
 名の爲に君と勇力を闘はせたと同様に、立派に、熱烈に、君と眞情の競争を
 しよう。先づ言つておくが、おれの妻はおれが戀慕して娶つた女だ。お
 れほど眞實な溜息をした男はないのだ。けれども、今日天下の傑物たる
 君に逢つた嬉しさは、結婚の當日、あいつがおれの家の閨を跨ぐのを、胸を

躍らせて見た時以上だ。おい、軍神！ 實際、もうすぐ出陣するばかりに
 なつてゐたのだ。さうして俺は、君の腕節を叩き切るか、俺の腕を亡する
 か、もう一度手合せをしようと思つてゐたのだ。君はおれを十二たびも
 破つた。それ以來は、君と一騎打をする夢ばかり見てゐた。落馬して
 引ッ組む、兜を引ッ剥がうとする、拳固で喉を撲ち合ふ、半死半生になつて
 目が覺める。と何のこつた。みんな夢だ！ マーシヤス君、たとひわれ
 くは羅馬に何の意趣もなく、たゞ君の追放に義憤を感じるばかりだと
 しても、十二歳から七十歳までの者を悉く徴發して、恩知らずの羅馬の土
 手ッ腹へ、津浪のやうにおツかぶさる大軍勢を注込んでくれる。さア、す
 ぐに奥へ往つて、同志の元老連と握手してくれたまへ。ちやうど今、羅馬
 市へぢやアないが、其所領地へ出陣しようとしてるところだ。
 コリオ
 あゝ、神々よ、御冥助を謝し奉る！

オーフ

だから、豪傑、もし君が自身で復讐軍をひきぬようといふのなら、おれの部下を半分だけ譲るから、駆引は君の都合のいゝやうになさい。……すぐさま羅馬市に攻めかゝるとも、滅す前に一威嚇するため、手荒く先づ遠隔地へお見舞ひ申すとも。……そこは軍事に老練な上に、本國の強處、弱處を知り抜いてゐる君のことだ。が、まア、來たまへ。元老連に紹介するから。彼等は悦んで君の要望に應ずるよ。……よく來てくれたねえ！ 昔仇敵であつた程度以上に親友だ。だが、マーシヤス、随分憎み合つたなア！手を。（握手して）ほんとによく來てくれたねえ！

コリオレーナスとオーフノダイヤスと入る

控へてゐた家僕のひと二が前へ進む。

家一

とんだ局面一變だ！

家二

實際、棒で以て一つ撲ちのめしてくれようと思つたつけが、どうも着物と

家一

人間とは別のやうに思つたもんだからね。

どうだい、あの人の腕ッ節は！ 二本の指だけで、おれをくるくつと廻しツちまつたぜ、まるで獨樂を廻すやうに。

家二

どうも面構へがちがつてると思つたよ。何でも、その、あの面は何だよ……何てつていゝか分らんけれどね。

家一

さうだ。まア、いつて見りやア、その……ほんのこつた、何でも、その、只の人間ぢやアないてことは分つてたよ。

家二

わッしもさう思つてた、實際。つまり、稀物なんでき、すばらしい人なんでき。

家一

きつとさうだ。けれどもあの男よりも偉い人が、ねえ、一人だけはあらア。

家二

だれ？ うちの旦那かい？

家一

いふまでもないや。

家二 あこの男の六人分だ。

家一 まさか、さうでもない。けれども於偉いと思ふなア。

家二 實際、その、どういつてい

ゝか分らんけれども、防禦と

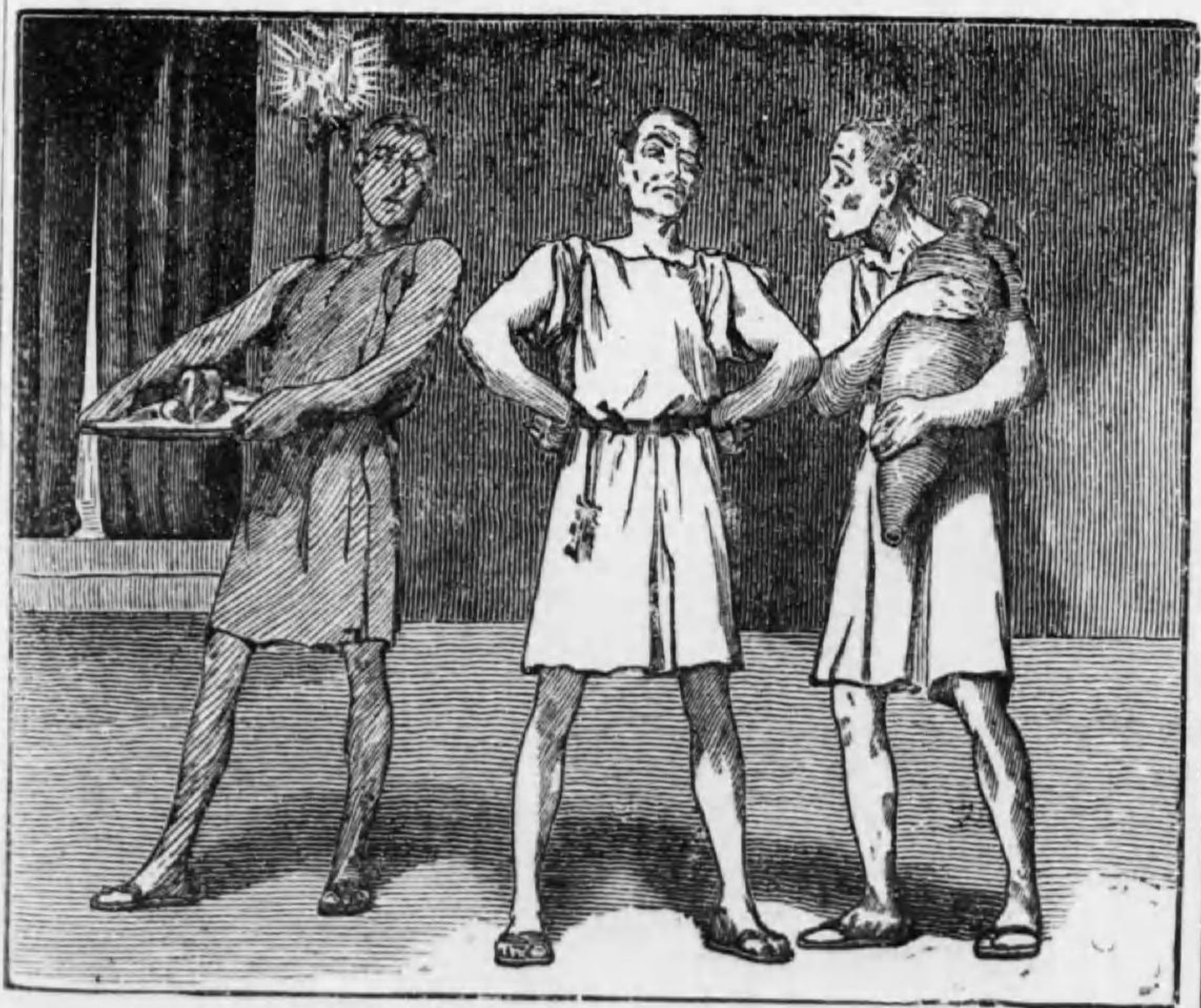
來ちや、こつちの大將さんが偉いや。

家一 さうよ。攻撃だつてもさうだ。

家僕の三が又出る。

家三 おい、奴たち、珍聞〜！

おい、極道、大珍聞だよ



家一 え、何だつて？ おい、おい、聞かしてくれ。

家三 あ〜、おりや羅馬人になるくらゐなら、罪人になつたはうがい。

家二、二 なぜだい？ え、なぜだい？

家三 おい、そら、うちの御大將をいつもよくやツつけたケイヤス・マーシヤスが來てるんだ。

家一 (氣色ばんで)「やツつけた」とは何だい！

家三 (面くらつて)「やツつけた」といやアしない。いゝいつも、いゝ相手だつたといつたのだ。

家二 (二人をなだめて)「まアさ〜、内輪話だらうぢやないか？ 實際、あの男にや

手こずんなすつたよ。御自分でさういつてゐなすつたよ。

家一 全く手剛過ぎたんだ、實の事を言や。コライオライぢや、奴が邸の大將を斬つて〜、カーボネードー(切形附の肉)のやうにしたんだ。

家二 もしも人肉が好きで、あつたら、大將さんを煮て食つたかも知れんよ。
家一 何か外にまだ珍聞があるかい？

家三 さア、あの男は奥で大もてだ。食卓の上座に坐つてら、まるで軍神さんの
息子さんで、あもあるやうに。元老たちは、あの男に物をいふ時にや、みん
な脱帽して、前へ往つて、突立つてら。うちの御大將も、あの男をまるで
情婦扱ひにして、手に觸るのをさへ有りがたがつて、話を聴くたびに、白
眼をして見上げてゐなさら。つまり、珍聞の要點は斯うだ、うちの大将が
洞切にされて、半分になつちまつた。御列席一同の御要求、御承認とあつ
て、かたゝの半分を他に取られつちまつたんだ。あの男はすぐに出陣
して、羅馬の門衛を耳引つぱつて抛り出し、邪魔な物は何もかも刈り倒し
て、道筋をばまるでぬツペらぼうにしつちまふといつてらア。
家二 あの男なら、きつと其通りにやつつけるだらう。

家三 やツつけるツて？ うん、やつつけるだらう。あの仁にや敵もある代り
に身方も大勢あるからね。其身方てのが、よしか、君、あの仁が何だ、所謂
その、不都合（不遇の詭語）である間は、面を出し得ないであるけれどね。
家一 不都合だ？ 何のこつたいそりや？

家三 だが、あの仁が頭ア持上げて、死身になつてやり出しやア、奴らアみんな、雨
上りの兎のやうに、穴から飛び出して、あの仁と一しよに荒れ廻るだらう。
家一 だが、いつ出陣てことになるんだい？

家三 明日だ。今日だ。すぐにだ。午後には、もうきつと太鼓がどん／＼と鳴
るだらう。つまり、此宴會の一部分も同然だ。口を拭かないうちに實行
されるだらう。

家二 ちや、また世の中が騒がしくなるだらう。平和なんてものは何の役にも
たゝないものだ。劍が錆びて、仕立屋が繁昌して、小唄作者が殖えるばか

りだ。

家一

戦争のはうがずつと好いや。平和が夜なら戦争は晝だ。活潑でもあるし、目ざましくもあるし、賑やかでもあるし、ほまち仕事もあらア。平和と來ちや、中風よろしくだ、不活潑だ、氣拔けた、聾だ、眠てるんだ、無感覺だ。人間同志の仲がわるくなるばかりだ。

家三

といふのは、助け合ふ必要がなくなるからだ。おりや飽迄も戦争黨だ。多分羅馬人もブルサイ人と同じ値段になるだらう。……(奥を見て)あゝ、お起ちだ〜！

家二、二

さ、さ、さ、さ、往かう〜！
皆入る。

第六場 羅馬 公街

兩保民官出る。

シ、ニ

何の噂もない。恐れるには及びませんよ。奴を復活させようといふ計畫も大鈍りの體だ。荒れ廻つてゐた民衆が、今はみんなおとなしくなつて、天下泰平だから、奴の黨派はしよげかへつてゐる。奴らはあの騒動のため、に苦んだとはいひ條、商工連が仲よくして、鼻唄で、めい〜の家業を勵んでゐるのを見るより、暴動を起して街中を押し歩くのを見るはうを好むんだから。

ブルー

全くいゝ時に突ツ張つたよ。……ありやメニ、ヤスだらう？

メニ、ヤス 出る。

シ、ニ

さうだ〜。あの男は、近來、非常に可憐にも深切にもなつた。……(メニ、ヤスに)や、御機嫌よう！

メニ、

や、兩君とも御機嫌よう！

シ、ニ あなたのコリオレーナスさんがなくなっても、御親友以外の者は、さほど不自由にも感じませんねえ。此様子ぢや、あの人がもつと怒つたつて、國家の公安上にどういふこともなさうですわねえ。

メニ、 幸ひに何事もありません。だが、もしあの男が周圍と折合つてくれたら、尙よかつたでせう。

シ、ニ あの人は今どこにゐますか、お聞きですか？

メニ、 いや、根つから聞きません。家母や妻女へも便りがないので。

三四人の市民出る。

市民 (兩保民官に) お二人とも御機嫌よう！

シ、ニ や、今晚は。

ブルー お、今晚は。…今晚は。

市一 わたしどもは、お二人のために、膝ア突いてお祈りをせにや濟みません、家

内も子供も一同。

シ、ニ いや、どうもありがたう！

ブルー ぢや、諸君、御機嫌よう！ あのコレオレーナスにも、わたしたち同様、君たちに好意を有つてゐて貰ひたかつた。

市民 では、御機嫌よろしう！

ブルー さやうならく。

市民ら入る。

シ、ニ (メニ、ヤスに) ねえ、平穩な今日のはうが、あの手合が此街中ををめき叫んであれば廻つてゐた時よりや幸福ですぞ。

ブルー ケイヤス・マーシヤスは戦争にや役に立つ人でしたが、傲慢無禮で、利己心が強くて、無類の野心家で…

シ、ニ 只一人で以て、同僚なんかなしで、全權を握らうといふのが病です。

メニ、 わたしはさうは思はん。

シ、ニ 若しあの人が執政官になつてゐたら、わたしらは今時分、どんな目に逢つてゐるか分らん。

ブルー 神さまたちが、それをいゝ鹽梅に防止して下すつたから、羅馬はあの男から離れて、此通り安泰だ。

警保官 出る。

警保

保民官どの、只今獄へ投じたばかりの奴隷の報告ですが、ヂルサイ人が兵を二ヶ所へ派して、わが羅馬領を襲撃し、道に當る物を悉く破壊し、戦争の與へ得る限りの殘虐を逞うしてゐるさうです。

メニ、 きつとオーフィディヤスだ。 奴め、マーシヤスの追放されたことを聞いて、又角を出しはじめたのだ、マーシヤスが羅馬を守つてゐた間は、殻の中にちゝこまつて、敢て面出しを能い爲なかつたのだが。

シ、ニ (メニ、ヤスに) ねえ、何もマーシヤスの事なんかをおつしやる必要はありません！

ブルー (警保官に) そんな流言を放つ奴をお罰しなさい。ヂルサイ人が攻めて來る筈はありません。

メニ、 筈がないツて？ 幾らも先例がある。現にわたしが知つてからでも、三度あつた。其奴を罰する前に、どこで其噂を聞いたかをよくお調べなさい。でないとい、折角警戒すべきことを知らせてくれた者を笞打つことにならうから。

シ、ニ お黙んなさい。 そんな筈はありません。

ブルー さうとも！

使者 役出る。

使 貴族たちが、今みんな顔の色を變へて、元老院へ往かれるところです。 容

易ならん知らせがあつたからです。

シ、ニ
あの奴隷の故だ。すぐ往つて、民衆の前で、奴を笞打ちなさい。……奴の報告が原に相違ない。

使
いゝえ、全くあの奴隷のいつた通りなのです。いや、あれよりもつと怖ろしい知らせが來ました。

シ、ニ
え、あれよりもおそろしい知らせが？

使
大勢が口を揃へて言ひ觸らしてゐます……事實かどうかは知りませんが……マーシヤスとオーフィディヤスとが合體して羅馬へ攻め寄せるといふのです。さうして古今無類の復讐を誓つてゐるといふのです。

シ、ニ
(嘲弄的に)へツ、ありさうなことだ！

ブルー
そりや弱蟲連中に「あゝ、マーシヤスがゐたらばなア！」と願はせようといふ爲に言ひ觸らすんだ。

シ、ニ
無論、そのための策だ。

メニ、
(頭を振つて)ありさうにないことだ。彼れとオーフィディヤスとは無類の敵どうしだ、一つになれる筈はない。

第二の使者役出る。

使二
(メニ、ヤスに)元老院からお迎ひです。ケイヤス・マーシヤスが、オーフィディヤスと共に、大軍を引率してわが外領へ亂入に及んで、既に頻に勝つて、民家に火を放ち、劫掠を縦まゝにしてをります。

コミニヤス 悲憤の體にて出る。

コミニ
(激昂した口吻で、保民官らに)おゝ、お前たちはいゝ事をしなすつたよ！

メニ、
どうしたのです？ 何事が起つたのです？

コミニ
(なほ保民官に)お前たちは自分の女どもの犯される手傳ひをしたのだ、全市の屋根鉛を自分らの頭の上へ浴し落す手傳ひをしたのだ、おのが鼻の先で

自分の妻共の辱められるのを見る爲の手傳ひを……

メニ、 どうしたのです？ え、何事が起りました？

コミニ (なほ保民官に) お前たちのあの多くの神殿はセメントがためのまゝで燃えッ

ちまつた。お前たちの自由権は、お前たちがあれほど頑張つた自由権も、
錐穴の中へ押し込められてしまつた。

メニ、 ねえ、何事が起つたのです？……(保民官に)とうん、お前たちがえらい事を

やつてしまつたらしい。(コミニヤスに) え、どうしたのです？ 若しあのマ

ーシヤスがブルサイ人と合體するやうなことがあつた日にやア……

「若し」どころか！ もう既に奴らの神さまになつてゐる。彼れは造化よ
りも巧妙な神が造へた人間で、もあるかのやうに彼等を活躍させる。だ
から、彼等は頭からわれ／＼を餓鬼扱ひにして、子供が蝶々を、又は屠丁が
蒼蠅を退治するやうに、呑んでかゝる。

コミニ

メニ、 (保民官に、皮肉に) 君たちは好いことをしましたよ、君たちや彼の前垂連は、

無暗に、職人連の發言權だの、菲喰連の臭い息だつてことを主張した君た
ちは。

コミニ あの男は今に此羅馬をお前たちの耳ツ邊で振廻すだらう。

メニ、 ハーキュリスがあのだ熟んだ果物を振り落したやうに。好いことをしまし

たよ君たちは！

ブルー (蒼くなりかけて) それは事實ですか？

コミニ なぞといつてゐるうちに、其顔が眞蒼になるだらう。どの地方も、大悦

びで謀反をする。たま／＼防戦する者は、餘計な忠勇振を嘲けられて、死
んで馬鹿者扱ひにされる。だれが彼れを非難することが出来よう？ 敵
が却つて彼れの値打を知つてゐるのだ。

メニ、 われ／＼はもう破滅だ、あの男が憐憫を垂れてくれん以上は。

コミニ だれが其憐憫を乞ひに行くか？ 保民官連は往かれまい、苟くも恥を知つてりや。民衆は、狼が牧羊者から受ける以上の憐憫を望むわけに行きまい。最上の親友とてもだ。若し彼等が彼れに向つて「どうぞ羅馬のために」なぞといつたなら、彼れの憎んでる者の要求と同一視されて、仇敵扱ひにされるに相違ない。

メニ、 いかにも。彼れが燃え木を抛り込んでわたしの家を焼拂つたつて、わたしにや「頼む、よしてくれ」といふ面皮はない。(保民官に) 君たちはいゝことをしたよ、君たちや彼の小細工屋連は！ いゝ小細工をしたよ君たちは！

コミニ お前たちのお庇で、羅馬が前例のない、おツそろしい慄へ病に罹ツちまつた。

ブルニ わたしどもがしたんぢやありません。

メニ、 なに？ ぢや、わたしたちがしたのか？ わたしたちは彼れの親友だつたんだ。それなのに、まるで獸類のやうに、臆病な貴族連同様に、わめき立てる群衆のいふまゝになつて、彼れを此市から追ひ出ししまつた。

コミニ が、彼れが戻つて來るとなると、改めて大わめきをせなけりやなるまい。彼れに次ぐ天下の猛將のタラス・オーフィディヤスが、まるで部將で、もあるやうに、彼れの命を奉じて活動してゐる。あの二人を敵にした以上、もう絶望だ。策も、力も、防衛もあつたものぢやない。

市民の一群出る。

メニ、 愚民めらがやつて來た。……(コミニヤスに) ぢや、オーフィディヤスも一しよですか？……(群民に) やい、コリオレーナスが追放された時に、わめき立て、脂くさい帽子を抛り上げて、空気を不潔にしたのは汝らだ。こゝら、彼れが歸つて來るぞ。其兵卒の頭髮の一筋々々が筈になるぞよ。あの時投げあ

群民 げた帽子の數だけの頭が、あの返報に、叩き落されるぞ。一同が燃える一塊の石炭にされつちまつたつても爲様がないや、此方がわるいんだから。
 (互に顔を見合せて) なア、實際、おそろしい噂があるぜ。

市一 おれは、あの時、追放したはうがい、とはいつたけれどもね、氣の毒だといつたんだよ。

市二 おれもさういつたんだ。

市三 おれもさういつたよ。實の事をいや、大勢がさういつたんだよ。つまり、あゝしたのは、あれが一等よからうと思つたからしたんだ。追放するのに賛成したけれども、そりやその、本心ぢやなかつたんだ。

コミニ (皮肉に) よく役に立つ立派な口だ、お前たちの口は!

メニ、 君たちは立派なことをしたよ、寄つてたかつて!... (コミニヤスに) カビトルへ往きませうか?

コミニ (歎息して) あゝ、外に爲様もない!

コミニヤスとメニ、ヤスと入る。

シ、ニ (群民に) さ、さ、諸君、お歸り〜。うろたへなくつてもいい。ある側の都合は、今の噂を非常に恐れてゐながら、心ではそれが事實であればいゝと願つてゐる。さ、歸んなさい、さうして平氣な顔をしてゐなさい。

市一 どうぞ神々さまがお護り下さるやうに!... さ、諸君、歸りませう。... だ

市二 から、追放した時に、わたしがいつたんだ、こりやよくないツて。みんながさういつたんだよ。だが、さ、歸らう。

群民 入る。

ブルー いやな噂だ。



シ、ニ 全まく。

ブルー カビトルへ往いきませう。財産ざいさんを半はん分ぶん投なげ出だしてもいゝから、此このうはさ噂はさを虚うそにしたい！

シ、ニ ねえ、往いきませう。

入はる。

第七場 羅馬ローマから小距離せうきよりの陣營ちんえい。

オーファイデイヤスが其副將そのふくしやうをつれて出る。

オーフ

ちや、まだ頻しきりに脱走たつそうして來るのか、コリオレーナスのところへ？

副將

あの仁じんにどういふ魔力まりよくがあるのだから知りませんが、御部下ごぶかの者ものだつて、彼仁あのじんを食し事じ前まへにや記恩辭きおんじに代かへ、食くつてる間あひだにや話はなしの種たねにし、食くツちまへば感かん謝辭しゃじに代かへます。閣下かくか、今度こんどの役やくちや、御部下ごぶかの目めにさへ、閣下かくかの光ひかりが薄うす

オーフ

くなつてゐますよ。

どうも爲方しかたがない、生中なまなかなことをすりや肝腎かんじんの計畫けいかくが蹉躓ささちしてしまふかならぬ。奴やつはおれ自身じしんに對たいしてすら、最初さいしよ、仲直りなかなはの抱擁ほうようをした時とき、おれが豫想よきやうした以上いじやうに傲慢かうまんだ。けれども、そこが奴やつの生來うまれつきなんで、易かへ玉たまでない證據しやうこだ。治なほすことの出來できんことア咎とがめることも出來できん。

副

ですが、閣下かくかのお爲ためを思おもふと、あの仁じんと御一ごしよでなく、單獨たんどくで全軍せんぐんを御引ごいん率そつになつたか、でなけりやあの仁じんに全權せんけんをお託たくしになつたはうがよかつたのです。

オーフ

君きみのいふことはよく分わかつてゐる。安心あんしんなさい、今いまに清算期せいさんきが來りや、奴やつに對たいしてうんと詰問きつもんを持出もちだしてくれるから。今いまのところは、奴やつが如何いかにも忠實ちうじつに、萬事ばんじブルサイの爲ためになるやうに切廻きりまはしてゐるかの如ごとく、自分じぶんにも思おもひ、世間せけんにも見みえてゐるが、…又恰またあたかも龍りゆうの如ごとくに戰たたかつて、劍けんを抜ぬくや否いな

や成功してゐるやうにも見えるが、……いよくの清算時となりや、大きな手脱落のあるのが分るだらう。すると、奴が其頸ツ骨を折るか、おれのがやられるか、どつちかだ。

副

閣下、あの仁は羅馬を陥れるでせうか？

オーフ

攻め掛りもせんうちに、きつとどの場所も降伏するよ。羅馬の上流社会は本から彼れの身方だ。元老や貴族連も彼れを愛してゐる。保民官なんざ軍人ぢやない。それに民衆は、彼れを軽忽に放逐したと同様に、随分粗忽に彼れを呼び還しかねないからね。つまり、彼れの羅馬人に於けるは、鷄の鱗族に於けるが如しだ。天成に不思議な魅力があるんだ。先づ、第一に、彼れは羅馬の功臣であつたんだ。もつとも、彼れは其榮譽をうまく維持し得なかつたがね。それは、とかく好運が續くと、つい人をして幸福を失はしめる慢心が募る故か、或は其得た奇貨を上手に處分してゆく智慧分

別が足らん爲か、或は生來融通の利かん一本調子で、兜から座蒲團への轉換が拙く、平和になつても戦時同様の峻厳な態度で民衆に臨むが爲か、それは分らん。が、とにかく、此三つとも、まさか全部ぢやないが、幾らかづつ持つてる彼れだから、其孰れか原で、怖れられもし、憎まれもし、追放されもしたのだ。とにかく其長所を發表すると同時に、それを窒息させる短所のある男だ。つまり、われくの長所は、要するに、其時代の解釋次第だ。権力自慢の過ぎるのは自滅のもとゐる。自分しのことゝを激賞する其椅子は、取も直さず、自分を葬る墓石だ。火が火を消し、釘が釘を追ひ出す。権利は権利に破れ、武力は武力に負ける。……さ、出掛けよう。……ケイヤスよ、羅馬を汝が取つた時は、汝が最もみじめな時だぞ。汝はもう直に俺の有だ。

はひ入る。

第五幕

第一場 羅馬 公街

メニ、ヤス、コミニヤス、兩保民官(シ、ニヤスとブルータス)らなききに
他の者共出る。

メニ、
いや、わたしは行きません。諸君は曾て彼れの大將であつた所の、彼れを
特に切愛してゐた人のいはれたことをお聞きであらう。彼れはわたしを
「父」と呼んでゐた。が、それが今何になる？ 彼れを追放した君たちが往
くがいく。しかも彼れの陣營の一哩もこつちから、彼れの憐愍を乞ふ準

備に、膝で這つて往くがいく。いや、コミニヤスどのいふことをすら聽
かなんだとすると、わたしは行きません。

コミニ
彼れはわたしを見知つちやゐないやうな顔をしてゐた。
(保民官らを顧みて)え、どうです？

メニ、
だがね、一度わたしの名を呼んだ、で、わたしは久しい馴染であつたを力
説した、共に血を流して働いたこともいつた。が、いくらコリオレーナス
と呼んでも、答へようとしなない。どんな名をも拒絶した。おれは何でも
ない、名はないといつてゐたが、終に、羅馬を焼き滅す猛火といふのが名だ
といつた。

メニ、
だらうと思つたよ！……(保民官らに)君たちは好いことをしたよ。此美し
い羅馬を毀してくれた兩保民官さん、お庇で石炭が廉くなるだらうよ、家
がなげりや最早焚く必要はないからね。立派な記念だ！

コミニ わたしは彼れに然う言つて見た、殆ど豫想されてゐない場合に寛恕する
のが、それが即ち王者の徳だと。と彼は答へた、國家が其罪人に哀訴す
るといふのは珍らしいことだと。

メニ、 もつともだ。さういはなくつてさ！

コミニ わたしはまた親友に對する彼れの私徳心を喚起しようとして試みて見た。と、
其返辭に、よしんば親友の一粒二粒があゝの厄介な、穢い稗溜の中にあるに
しても、それを選び出してゐられるか、そんな斟酌のために、焼打を見合せ
て、あの微臭い臭ひを嗅されてたまるものかと。斯ういふのだ。

メニ、 一粒や二粒の爲に？ わたしが其一粒だ。彼れの家母や妻子や（コミニヤス
を見やつて）此立派な男も、みんな其粒仲間だ。（保民官らを見て）お前らは、微
臭い稗溜なのだ。お前らの臭さは月界までも達く。お前らのお底でわれ
われまでも焼き殺されるんだ。

シミ、 まあ、そんなに御立腹なさるな。前例のない此窮境に際して、お助け
下さらんのは止むを得ませんが、困り抜いてる者を罵倒なさらないで下さ
い。だが、若しあなたが、辯を揮つて歎願して下さりさへすれば、わたし
共が急に募り得る兵力以上にあの人を取り押へることの出来るのは受合
です。

メニ、 いや、わたしは關係しますまい。

シミ、 どうか御盡力が願ひたいもので。

メニ、 どうしろといふのだ？

ブルー、 羅馬のために、あのマーシヤスに、御親友としてのあなたの力で、出来るだ
けのことをやつて見ていたゞきたいのです。

メニ、 なるほど。だが、若しマーシヤスが、コミニヤスどのを追ひ返したやうに、
わたしをも追ひ返すとしたら、どうだ？ あゝ、親友がひもない、冷酷な

と、情けない思ひをするばかりぢやないか？

シ、ニ いや、あなたの御厚意に對しては、御盡力相應に、羅馬人一同が感謝します。

メニ、 やつて見ませう。多分、聽いてくれるだらう。が、コミニヤスどのに對して、唇を噛んだり「えへん」といつたりしたと聞くと、心元なくなる。が、訪問時がわるかつたのかも知れん。食事前であつたかも知れん。血管が空だと、血が冷い、だから早朝は機嫌がわるい、怒したり與れたりはせんものだ。けれども此管どもへ、血の運輸器へ酒なり食ひ物なりを詰め込むと、精神が柔軟になる、僧さんのやうに斷食をしてる時よりは。だから、此方の望み通りに食事をしたかどうかを見た上で持ち掛けて見よう。

ブルー あなたはあの人を説得する北海道を御存知ですから、迷子におなりなさる氣遣ひはありません。

メニ、 とにかく努力して見よう。成否は程なく分るだらう。

入る。

コミニ きつと駄目だ。

シ、ニ 駄目ですツて？

コミニ 彼れは今黄金座に坐つてゐる。其目は羅馬を焼きさうに眞赤だ。侮辱された怨みが彼れの慈悲心を牢へ入れてしまつた。膝を突いてまで頼んだが、彼れは小聲で「起ちなさい」といつて、後は無言で「歸れ」といふ手眞似をした。彼れの爲さんとすること、爲さやらんとすることは、後で書面で以ていつてよこしたが、飽迄も先方の條件にわれ／＼を服従せしめる筈だといつてゐる。だから、もう絶望だ、國の爲に歎願に往かうとしてゐるとか聞いた彼れの老母や妻女の力を借りない以上。だから、出掛けていつて、切に頼んで、二人に往つて貰ふやうにしよう。

入る。

第二場 羅馬市に近きブルサイ軍の陣營の入口

二番卒が衛つてゐる。

そこへメニ、ヤスが出る。

番一 こら、どこからござつた？

番二 待て。さがれ？

メニ、 いや、男らしくお衛りなさる。結構です。が、御免なさい、わたしは國務

を帯んで、コリオレーナスどのに會ひに來たものだ。

番一 どこから？

メニ、 羅馬から。

番一 こゝは通れません。お歸りなさい。將軍はもう羅馬からの使者は受け附

けられんです。

メニ、

いや、兩君、其將軍が羅馬の事や其親友の事を話した時分に、君たち

が聞いた名前のうちで、外のがすべて白紙なら、わたしの名は當

り札だ。わたしはメニ、ヤスだ。

番一 とにかくお歸んなさい。それが結構な名かも知れんが、こゝちや

通用しませんよ。

メニ、

おい、君らの將軍はおれの親友だ。わしは彼れの功勞の記録係りであつた。世人は彼れの



比類のない、或は大分誇張された名譽をわしといふ記録から讀んだものだ。といふのは、それを嘘にならん程度で、うんと大げさに、彼れが首となつてゐる黨員間に弘めたのはわしだからだ。いや、時としては、滑る地上で投球をするやうに、つい遠く投げ過ぎて、殆ど虚偽に類する程度にまで褒め立てたこともあつた。だから、通して貫はにやならん。

番一 いや、あんたが將軍のために、自分の爲に吐いた程にたびく嘘を吐いたにもしろ、通すことは出来ません。嘘を吐くのが童貞を守るのと同様な善い事だつても、いけません。だから、お歸んなさい。

メニ、 ねえ、わしは君らの將軍の始終肩を持つたメニ、ヤスだといふことを考へて下さい。

番二 あんたは、今いはれた通り、將軍の爲に嘘を吐いた人かも知れんか、こちからは、將軍の命令で、本當の事をいふのが役目です。だから通せない。お

歸んなさい。

メニ、 もう食事は済んだやうかね？ 食事の済まんうちは會ひたくない。

番一 あんたは羅馬人かね？

メニ、 うん、君らの將軍とおなじだ。

番一 ぢや、將軍とおなじに、羅馬を憎むのが當然だ。おい、國家の干城を市門から突つき出して、逆上させた愚民らのするまゝに、國の楯を敵へ渡しておきながら、今更將軍の復讐心をなだめることが出来ると思ふんですか、婆ア連の泣き聲や、娘ッ子連の柔ッこい掌や、あんたのやうな惚けかゝつた人間の無力な仲裁で？ そんな弱い息の根で、今にも燃え上らうとしてゐる全市焼打の火の手が消せると思つてるんですか？ とんでもないことだ。だから、すぐ歸つてつて、打殺される準備をなさい。あんたはもう宣告されてるよ、將軍はもうとうに赦免しないと誓つてますよ。

メニ、 いや、君らの將軍は、おれが来たといへば、きつと鄭重に扱ひます。

番一 なんの、あんたなんかを知るもんか、うちの隊長が！

メニ、 いや、わしは將軍のことをいつてるのだ。

番一 その將軍がだ。お歸り。お歸りなさいてば。(きつとなつて)歸らんと、たか

が一合五勺かそこいらの其血をば出さしツちまふぞ。……さ、もう何もいふことはない。さ！

無理に押し出さうとする。

メニ〇 いや、だがね、まア、その……

三人でせりあふ。

コリオレーナスとオーフィディヤスが出る。

コリオ (この様子を見て) どうしたんだ？

メニ〇 (此聲を聞くと同時に番卒に) さア、野郎、おれは其方の事をいつつけてくれるぞ。

おれの尊重されるのを見てゐろ。悪太郎の番兵なんぞのお節介で、倅の
コリオレーナスから遠ざけられてたまるものか！ おれがちやほやされ
るのを見て、絞罪でなけりや曝された上での死刑か、でなけりやそれ以上
の酷刑に處せられかねないのを豫想してろ。見てろ、さうしてうぬが身
の上を豫想して氣絶でもしろ。……(コリオレーナスの方へ進み寄りて)お前のため
に日々に神集ひ遊ばされて、神議あらせらる、榮光赫奕たる神々の御愛着
も此老父メニ、ヤスのそれと聊かも差違はない！ お、倅よ、倅よ！
お前はわしたちを焼き殺さうとしてゐるといふが、わしは今爰へ其火を消
す水を持つて来た。實は、一旦は斷つたが、わしの外にはお前を動かして得
る者が無いといつて、とう／＼全市民の溜息に吹き飛ばされて、やつて來
ました。お前に祈ります、どうぞ羅馬と其歎き訴へる國民とを赦して下
さい。善良なる神々よ、お前の怒りを沈澱させて、其滓をば(と番卒を見返つ

て)こゝにゐる此奴めにお向け下さい。こいつめが邪魔をしておれをお前に取次ぎをらんのだ。

コリオ
えッ、去ッちまへ！

メニ、
(驚いて)え？ 去ッちまへ？

コリオ
おれは妻も母も子も知らん。おれは今あかの他人の爲に奉仕してゐるんだ。自分一個の復讐もあるが、要するに、赦す赦さんはブルサイ人の胸に在る。もとは親友であつたにしろ、それを慈悲心が記えてゐる以上に忘恩の念が殺してしまつてゐる。だから、お歸んなさい。羅馬の城門はわが軍の力で破れるが、此心は君の歎願ぐらゐぢや陥れることは出来ん。……が、もと親友であつた君だ。(と懐中から一通の書状を出して)これを持つて往きなさい。君のために、持たせてやらうと思つて書いといた。(メニ、ヤスに書状を渡して)メニ、ヤス、もう何も聴く必要はない。……(オーファイデヤスを顧み

て)オーファイデヤス、此男は羅馬でのわたしの親友だつた。けれども此通りだ。

オーフ
御心底の變らないのを慥かに見届けた。

コリオレーナスはオーファイデヤスと共に入る。
メニ、ヤス 失望落膽して見送る。

番一
(嘲弄的にメニ、ヤスに)時に、あなたの名前はメニ、ヤスさんでしたッけねえ。

番二
なるほど、大したもんだねえ、あなたの名前の魔力は！ これでもう歸られるわけだ。

番一
あなたのやうな偉い人を通さなかつたので、なるほど、小ッ酷く叱られッちまつた。

番二
これぢやア、どうしたつて、氣絶しさうな筈だ。

メニ、わしはもう世の中の事も汝らの大將の事も關はん。況んや汝らのやうな取るに足らん者は、其存在をも認めてをらんわ。自殺の覺悟があれば殺されるのも怖くない。汝らの大將が何をしようと思ふものかい！ やい、いつまでもさうしてろ。汝らのみじめさは、年を取ると共に殖えるばかりだ！ 今いはれた通りを汝らに言ふ、去ツちまへ！

メニ、ヤス 入る。

番一 立派な男だ。たしかに。

番二 偉い人てのはこちらの大将だ。まるで大岩だね、大風にびくともしない櫛だね。

二人とも 入る。

第三場 コリオレーナスの帷幄。

コリオレーナス、オーフィデヤス及び其他の者が出る。

コリオ 明日は羅馬の市壁の前に陣を据ゑませう。御同僚、わたしの行動の公明だつたことを、是非あなたからザルサイの諸公へ報告して下さい。

オーフ あなたは元老らの目的だけを尊重なすつて、羅馬全市の請願に耳を塞ぎ、只一言の私談をもお許しでなかつた。説き落し得られると堅く信じて来た親友たちをも擯けなすつた。

コリオ 先刻斷腸の思ひをさせて追ッ返した老人は、わたしを實父以上に愛してゐたのです、いや、崇拜してゐたのです。あの男をよこしたのは、彼等の最後の手段だ。手酷く追ッ返したものの、舊誼に報ゆるために、もう一度：一旦拒絶したので、今更承諾ともいひかねてゐるらしい……あの最初の條件を持出して見ました。ほんの少し譲歩したんです、望みを遂げんで歸る彼れに花を持たせるために。此上はもう政府からの使ひにも、親

友からの哀訴にも耳は貸しません。

此時遠くにて大勢の叫び聲が聞える。

や！ あの叫びは？ 今誓つたばかりのことを破らせようとするのか？

：：うんにや、破らん。

グーシリヤを眞先に、幼いマーシヤスの手を引きつゝ、老母グラムニヤが出る。つゞいてグーシリヤがしななくとして出て来る。いづれも喪服を着てゐる。つゞいて大勢の従者が出る。

コリオ

(じつと見やつて) 眞先に来るのはおれの妻だ。その次は、此體を鑄上げてくれた貴い鑄型だ、血統の孫の手を牽いて来る。…いや、情合なんか亡くなつまへ！ 夫婦の羈絆だの、骨肉の特權だの！ うぬらも悉く寸裂れつまへ！ 剛情と頑固を美德としよう。膝を屈げたからつて、それが何だ？ あの鳩のやうな目附は神々にも誓言を破らせるといふが、あれが何

だ？…おれがむざ／＼融けるとすると、おれも他の奴らより堅固でない人間だぞ。…あゝ、家母は、オリンポスが土龍の丘へ歎願に來たやうに腰を屈め、我兒めも、造化の自然に教へられて「いやといつて下さるな」と仲裁しさうな面附をしてやつて来る。…アルサイ人よ、羅馬中を耕き返しつまへ！ 伊太利中を引ッ掻きならしつまへ！ おれは本能なんぞに負ける馬鹿者ぢやないぞ。おれは、人間はわれとわが手で造られたもので、親も子も妻も、何にもないものゝやうにしてゐてくれる。

このうちに行列は近附く。

グーシリヤはじめ一同の者、コリオレーナスの前に膝まづく。

グーシ おゝ、あなた！ おゝ、あなた！

コリオ (顔を背けて) おれの目は羅馬にゐたころの目ぢやアないぞ。

グーシ さうお思ひなさるのは、わたしたちの姿が、悲みのために、變つてしまつた

からなのでございませう。

コリオ (傍白) おれは鈍な俳優のやうに、白を忘れて、大恥をかきさうだ。……(ヴァージリヤに) おれの最善の骨肉よ、酷くするのを赦してくれ。……(ヴァージリヤに) おれの最善の骨肉よ、酷くするのを赦してくれ。……お、接吻を、追放以來絶えて久しい、復讐の甘さよりも甘い接吻を！ これ、おれのいとしい妻よ、あの嫉妬深い天上の妃神に誓つて、おれの此眞實な唇は、あれから始終童貞を守つてゐたんだ。……お、こりや濟まなかつた！ 饒舌つてゐて、つい大切な母上に挨拶をするのを忘れてゐた。やい、膝よ、土の中へ沈んで(と母の前に跪いて) 竝の倅以上の深い恭敬の痕を見せろ。

ブラム お、(と強ひて起させて) 起つて祝福をお受けなさい！ わしが膝を突きます、此燧石を座蒲團にして。逆まだけれど、これ、此通り。今までの親子の禮儀は間ちがつてゐたかのやうに。(と跪く)。

コリオ (急いで抱き起して) どうしたのです？ あなたが膝をお突きなさる？ 始終

叱られてゐたわたしに、あなたの倅に？ ちや、濱の眞砂は跳ね上つて、星の面を打て。暴風に煽られる高慢な杉の梢は、燃え立つ太陽を引ッばたけ。いかな難事をも容易とならせて、不可能の根を絶つてしまへ。

ブラム なう、わしの勇士、お前を造るには、わしも大分手傳つたんだ。(ヴァージリヤを見返つて) この婦人を知つてゐますか？

コリオ バブリコラの妹御。羅馬の明月！ 純潔な雪を料にして、霜の力で凝結して

ブラム (幼いマーシヤスを前へ進ませて) 今はまだ見すばらしいけれど、こりやお前の縮

コリオ 図だ。時が経つて、説明が附いたら、お前にも劣らんものとなるだらう。お、武人の御神よ、こよなきジョーヴの御許を得て、何卒此兒めの心を壯烈なるものとならしめたまへ！ 不死身同然の強敵をも顔色なからし

むる大勇者となれ！ また戦ひに臨んでは、一つの大きな礁標の如く、常に颶風にも堪へて、汝を目撃するあらゆる者共の危難を救へ！

ゾラム (幼いマーシヤスに) これ、膝を。

幼いマーシヤス 膝まづく。

コリオ 感心々々！

ゾラム 此兒も、嫁も、此婦人も、わしみづからも、けふはそなたに頼むことがあつて來ました。

コリオ 黙つて下さい。それとも何かお頼みになることがあるなら、阿母に豫めいつておくことがあります。これだけは決して許さんと誓約して來たことは爲方がない。あなたを拒むんだと思つて下さるな。兵士を解散しろとか、羅馬の職工どもと妥協しろとか、言つて下さるな。不孝だとか、不人情だとか、おいひなさるな。冷かな理窟で以て、この火のやうな怒や復讐

を鎮めようとなさるな。

ゾラム お、待つとくれ〜！ それぢや、まるで何も許さんといふのと同じだ。おまへが今成らんといつたこと以外には頼むことも何にもありやせんから。でも、なほ頼んで見ます、よしんば此願ひが叶はんにもしろ、それはおまへの頑固の故で、わしらの罪ではないやうにするために。だから、お聴きなさい。

コリオ (オーフィディヤスらに) オーフィディヤスどものも、ブルサイ人たち一同も、聴いてゐて下さい、わたしは羅馬からの頼みを、決して内々では聴かんから。… 要求をおつしやい。

ゾラム わしらが口で言はんでも、此服装や姿で、お前の追放以後、わしらがどんな生活をしてゐたか、分るであらう。斯ういふ使ひに來るわしらは、不幸な女が此世の中にあるか考へて見て下さい。見ればおのづから嬉し涙

が溢れ、喜びで心が躍る筈のお前の顔が、わしらの目から涙を絞り、怖ろしさで悲しさで此胸を戦慄えさせる、現在の倅が、夫が、父が、其本國の五臟六腑をすだく々に引裂くのを、母が、妻が、子が目のあたりに見るのかと思ふと。わしらに取つて、お前を敵にするほど辛いことはない。せめてもの心ゆかしである神々へのお祈りさへも出来ん。何故といふに、お前も大事なりや國も大事だから、どちらをも負けさせたくはない。どちらか勝てば、悲しや、育て親の此國を失ふか、いとし子のそなたを失ふかせねばならん。どちらが勝つにしろ、身の不幸はのがれられん！ 國に叛いた卑怯者として、そなたが手枷や足枷をはめられて、街中を引廻しにされるのを見なければ、妻子の血を流したのを名譽顔に、勝ち誇つて、祖國の壞れ跡を練り歩くのを見ねばならん。これ、倅、わしは決して此役の終るまで運命を俟つてはゐません。若しわしの力で、そなたにどちらにも

偏らず、義理を立てさせることが出来んとなりや、そなたはすぐさま本國を攻めようとするであらうが、そりや、取りも直さず、そなたを産んだ此母の胎を踏みじるも同然ですぞ、よもやそなたはそんなことはすまいけれど。

グージ

ほんに、それこそ此子を生んだわたしのお胎をも踏みじりなさるので、たゞもう御自分の名を残したい爲ばかりに。

童

おりや踏まりやせんぞ。逃げてツちまつて、大きくなつてから戦をする。

コリオ

(決然として) 女々しい根性にならん爲には、子供や女の面を見ないに限る。

あゝ、こゝに居過ぎた。

椅子を離れて去らうとする。

ゾラム

いや、まア、待つて下さい。羅馬人を助けてくれといふ此頼みが、そなたが今仕へてゐるゾルサイ人たちの破滅にでもなるのなら、そなたの面目に



もかゝはるだらうが わしは只、そなたを双方の仲裁者にして、ブルサイ人には慈悲を施させ、羅馬人には慈悲を受けさせ、どちらからもそなたを「平和の恩人」と感謝させたいと思ふばかりです。なう、倅、此役の勝敗はまだ分らん、けれどもこれだけは分つてゐる。若しそなたが羅馬に勝てば、其收穫は口にされるたびに呪はれる悪名です。さうしてそなたの傳記には「此者は立派な人物であつたけれども、晩節を全うせず、

祖國を攻めて滅したゆゑ、其美名を抹殺され、後世まで忌み憎まるゝ名を殘した」と書かれるばかりだ。なう、倅、そなたは常に名譽を重んじ、神々の徳に肖らうと力めたから、聲は雷のやうにすさまじうても、電光は、たかが、櫛の幹を砕くぐらゐであつた。これ、なぜ物をいひませんか？ 執念深いのを男らしい所爲とでも思つてゐるのか？ ……阿女よ、何とかいひなさい。そなたがそれほど泣いてゐるのに、あれは關はんでゐるぞよ。孫よ、何とかいへ。いたいけな其口で頼んだなら、あれの氣が折れるでもあらう。此世の中に男で彼れほど母の恩を荷うてゐる者はないのに、わしを足枷はめられた罪人のやうに歎願させをる。…（コリオレーナスに）そなたはつひぞまだ此母に孝行をしてくれたとてはないぞよ。此みじめな母に、は、外に可愛い雛鳥とてもないのだけれど、そなたをわれから勧めて役に出し、恙なく手柄をして歸るのを歡んだことが何度あつたと思ふ！ わし

の此頼みが無理か？ 非道か？ 非道なら、わしを追ひ返しなさい。が、もし非道でなくば、そなたが非道だ。母に背く不孝の罪をきつと神々がお罰しなされる。…顔を背ける。…女たち、それ、下に。さ、膝を突いて、彼れを窘めてくれう。…わしらを氣の毒がる心よりもコリオレーナスの名に誇る心のはうが勝つのだらう。さ、下に。これが最後。…これでも聽かれなけりや、歸つていつて、みんなと一しよに死にませう。…これ、わしらを見なさい。頑是ない此兒までが、此通り仲間入りをして、膝を突き手を舉げて、頼んでゐるのを見たら、否だとはいはれさうにない筈。…(心中には苦悶を感じながらコリオレーナスは頑然として見返りもしない)。さ、さ、歸りましょく。此奴の母はブルサイ人であらう、妻もコライオライにゐるんだらう。此兒が彼奴に肖てるのは偶然なのだらう。…もうお暇しませう。市が火になるまでは、もう物をいはん。其時になつて、又すこし。

といひつゝ、愀然として立ちあがる。コリオレーナスつと寄つて母の手を捉へる。双方とも暫くは無言でゐる。

コリオ

おゝ、おつかさん、おつかさん！ あゝ、あなたはとんだことをなすつてしまつた！ 御覽なさい、天が開いて、神々が下界を見おろして、此不自然の情景を嘲笑してをられる。おゝ、おつかさん、おつかさん！ おゝ！ あなたは羅馬に取つては幸福な勝利を得なすつた。けれども其倅に取つては、おゝ、此あなたの勝利は、たとひそれが致命傷でないまでも、限りなく危険なものだといふことを御承知なさい。…だが、もう決心した。…オ一フィディヤス、もう約束した通りの戦は出来んことになつたが、十分有利な條件で和を講ずることにしようよ。ねえ、オ一フィディヤス、君がおれであつたとしたら、家母への返辭をこれ以下に止めることが出来るかい？
え、オ一フィディヤス？

オーフ 聽いてゐて、わたしは非常に感動させられつちまつた。

コリオ きつとさうだつたらう。(涙を拭ひながら) 慈悲がおれの目から汗を絞り出すのは容易なこつちやないからね。それはさうと、どういふ條件で和睦したもののか、君の意見を聴かしてくれ。おれは羅馬へは入らんで、君と一しよに歸る積りだ。どうか、此一件に就いちや、おれの後援をしてくれたまへ……お、母よ……妻よ！

オーフ (傍白)おれは汝が、胸の中で、慈悲心と名譽心との衝突をはじめたのを喜ぶ。これを傳手にして以前の好運を回復する道を開かう。

コリオ (女連の或手真似に應へて) あゝ、今すぐに。が、其前に、一しよに一盃飲みませう。言葉以上の確かな證據を持つてお歸りなさるがい。似よつた條件に連署してお渡しするから。さ、さ、一しよにおいでなさい。婦人たち、あんたたちは此功勞の記念に殿堂を建て、貰ふがい。伊太利中の同盟

の劍や武器を擧つて來ても此和睦は出來なかつたんだから。

一同入る。

第四場 羅馬。公街。

メニ、ヤスとシ、ニヤスと出る。

メニ、 それ、あの、カピトルの隅の石を御覽。

シ、ニ あれがどうしたといふのです？

メニ、 あれを君が其小さい指で取除けることが出来るやうなら、使者に往つた婦人連が、中でもあの老母が彼れを説き落して歸るといふ望みもあるが、到底それは駄目だ。われくの此喉は、もう切られるにきまつてゐる。

シ、ニ だつて、こんな短時日の間に、人の性質がさうまで變つちまふ筈はありませんや！

メニ、毛蟲と蝶々とはまるで異つてゐる。けれどもあの蝶々が本は毛蟲であつたのだ。マーシヤスも本は人間だが、今は龍だ。翼が生えてゐる。もう這ひ廻つちやゐない。

シ、ニ だつて老母さんを非常に愛してました。

メニ、わたしをも愛してゐたよ。今ちやア其老母を、八十歳になつた馬ほどにも記えちやゐまい。熟み切つた葡萄をも酸ッぱくしさうな面附をして、破壊器械が動き出したやうに、地びたを回ませつゝ歩いてゐる。彼れの目は胸甲をも突き通す、聲は釣鐘のやう、咳拂ひは大砲よろしくだ。アレキサンダーの像かと思ふやうに、威張り返つて坐つてゐる。彼れが「しろ」といふことは、すぐさま實行される。まるで活神さまだ。不死ではないばかりだ。天に居所がないばかりだ。

シ、ニ さうしてお慈悲もないでせう、あなたがおつしやる通りなら。

メニ、それが生のまゝのところだ。老母の力だつても、どうなるものかな！

慈悲心なんぞは、雄の虎に乳がないと同様に、ない。今に市中の者にそれが分る。こりやみんな君たちの故だ。

シ、ニ (天を仰いで) 神々さま、どうかお助け下さい！

メニ、なんの、お助けなさるもんか！ 彼れを追放する時に神さまに關はなかつたんだから、彼れが叩き殺すといつてやつて來たからつて、何の神さまがこちとらをお關ひなさるものか！

使者役出る。

使 (シ、ニヤスに) 命を助からうとお思ひなさるなら、早くお宅へお逃げなさい。平民連が御同役をつかまへて、引摺り廻してゐます、御婦人たちが吉い知らせを持つて來られんやうなら、一寸だめしにして殺すといつてゐます。

第二の使者役出る。



シ、ニ どんな様子だね？

使二 吉いお知らせです、吉いお知らせです！ 御婦人たちが勝ちました、ブルサイ人は退却しました、マーシヤスは歸りました。羅馬空前のめでたい日です。タークインを逐ひ出した日だつて、けふほどぢやなかつたでせう。

シ、ニ え、そりや本當かい？ 全く

使二 全くです、太陽は火だといふ

事實ほどに確實です。これをお疑ひなさるてのは、一體、今までどこに燻つてゐなすつたのです？ 急流が風に吹き立てられて水門をくゞるやうに、生き返つて喜ぶ市民たちが、市門を目がけて押寄せてゐます。……あれ、あれをお聞きなさい。

喇叭や木笛や太鼓の音がごつちやになつて聞える。

喇叭だの、大喇叭だの、絃楽器だの、横笛だの、小鼓だの、鏡鈹だの、人間の聲だの、いやもう、太陽まで踊り出します。……あれ、あれを！

奥にて喝采の聲

メニ、
それはめでたい。では、婦人連の出迎へをしよう。あの老母は、執政官や元老や貴族や平民全部をひつくるめた以上の働きをした。（保民官に）君らのやうな者は、海にも陸にもいくらでもある。今日はよつほどよくお祈りをしたと見えるね。つい今朝までは君らの喉一萬に對して鏝一つく

れようとも思つてゐなかつたのだが。…あれ、あの喜ぶことは！

此間終始喝采がつゞいてゐる。音楽もつゞいてゐる。

シ、ニ 神々よ、先づ第一に、此吉報を齎した者に祝福を下し賜はりませ。次にわ

たくしどもの感謝を受けさせられませ。

使二 誰れ彼れといはず、擧つて神恩を感謝せねばなりません。

シ、ニ もう市近くへ來てゐるんですか？

使二 もう直に入るところです。

シ、ニ 往つて歓迎の手傳ひをしませう。

入る。

第五場 同處。市門に近き街路。

二人の元老を先きに、ブラムニヤ、ワーヅリヤ、グリリヤ、つゞいて貴

族連、其他大勢が一方より練つて出て、次の白をいひ終ると
他方へ通過して入る。

元一

羅馬の命を救つた大恩人を御覽なさい！ 各種族の人々を悉く呼び集め

て、神々に御恩を感謝し、式の如く、凱旋の花火をお焚きなさい。婦人た

ちの進む道々には花をお撒きなさい。マーシヤスを追放した時のあの聲

を、今日其母御を歓迎する聲で以て打消して、罪を償ひなさい。「御婦人が

た歓迎々々！」と叫びなさい。

皆々

御婦人がた、歓迎々々！

太鼓を盛んに打鳴らし、喇叭を盛んに吹鳴らす。
皆々入る。

第六場 コライオライ。公街。

タラス・オーファイディヤス 従者若干をつれて出る。

オーフ 元老たちのところへ往つて、おれが来たといへ。此書面を渡して、これを讀まれたら、市場へ出張なさい、あそこで彼等及び平民連の前で、書中の事が事實である所以を誓言しますからといへ。おれの弾劾する其當人は、もう今頃は港へ着いたらう、さうして民衆に會つて、何とかうまく言ひ開きをしようとしてゐるだらう。いそげ。

従者ら 入る。

オーファイディヤス 黨の共謀者三四人出る。

おゝ、ようこそ！

共謀一 閣下、御機嫌はいかがです？

オーフ 牛中な慈悲三昧をして、施しをしたゝめに、毒害されかけてゐる人間といふ有様だ。

共謀二 閣下、先だつて御依頼なすつた時と同じお考へでおいでならば、其御厄難

はわれ〜がお救ひ申しませう。

オーフ そりやおれには分らん。そこは民衆の意向次第だからね。

共三 奴らの意向は、あなたがたの勝負がきまらんうちはきまりませんよ、けれどもどちらか倒れなさりや、生き残つてはうへ何もかも獻じるのは明かです。

オーフ そりやさうだ。だから奴をやツつけるうまい口實を考へてるところだ。

奴を引立てるために、おれは自分の名譽を抵當にまでした。お庇で奴は頭を持ちあげはじめ、阿諛をふんだんに新しい島へ振撒いて、だん〜おれの仲間内へ取入つた。そのためにや、粗暴で、自分勝手に、始末におへなかつた性來をも奴は矯めた。

共三 あの男は名代の剛情者で、それが爲に執政官にもなりそこなつたのです。

オーフ

一寸でも腰を屈めることをせんので、それでその……

さうだ、その通りだ。それが爲に奴は追放されて、おれの家へやつて来て、喉をおれの劍の前へ突出した。おれは奴を取上げて、同僚にして、何もかも奴の望み通りにしてやつたのみならず、奴の名譽になる計畫のために、おれの部下の精英をひっこぬいて引率することをも許した上に、おれまでが協力してやり、かうして自ら害ふのが所謂仁俠だと自負してゐた。そのうちにおれは奴の同僚ではなくて、まるで屬官のやうになつた。奴は大きな面をしておれを備兵扱ひにしはじめた。

共一

全く其通りで。ですから、軍隊一同が驚いてゐました。其うちに、いよいよ羅馬に押寄せて、大勝利は目前といふ段になつて……

オーフ

それだ。それを理由に奴をとつちめてくれようといふのだ。奴は嘘同様に安價な、女共の涙の一ツ滴しや二ツ滴しに代へて、此大戦役の血をも汗

をも賣りやアがつた。だから、奴の命はない。奴が斃れりや、おれがまた元へ戻る……

俄に太鼓の音、喇叭の聲、大勢の叫び聲が聞える。

おや！ あの騒ぎは！

共一

あんたが本國へお歸りなすつた時は、まるで飛脚が歸つて来たやうだつた。だれも歓迎するものもなかつた。それなのに、奴が歸ると、あの通り、空を突んどくやうな騒ぎです。

共二

うぬが子供らを殺されてゐながら、辛抱づよい馬鹿者共めが、あいつを歓迎するために、喉を痛めてまで、卑劣な聲を振絞つてゐやがる。

共三

だから、奴が口を開いて、民衆をごちやまかしはじめんうちに、機會の有り次第、劍を喰はしておしまひなさい、わたし共が手傳ひますから。倒しつちまやア、奴にどんな理があらうと、そりや、あんたの一言で、葬られてし

オーフ まひますよ、死骸と一しよに。
もう黙つて。あそこへ貴族連が来た。

市の貴族ら出る。

衆貴 ようこそ。まづ、御機嫌よう！

オーフ これは恐れ入りました。時に、諸公には、手前が差出しました書面を御熟
讀下さいましたか？

衆貴 はい、讀みました。

貴一 さうして甚だ遺憾に存じてゐます。最終のそれ以外の過失はたやすく罰
金で償はせることも出来ませんが、これからといふ最も緊要な間際にわが軍
の最大利益を抛棄し、敵の降伏の歴然たる場合に空しく和議を結んで、わ
が國に損害を及ぼすに到つては、容赦の餘地がありません。
（二方を見て）來ました。彼れの辯明をお聞きなさるがい。

コリオレーナス 出る、太鼓手、喇叭手をひきぬて。平民らつゞい
て出る。

コリオ

諸閣下、御機嫌よろしう！ 自分は依然として諸公の武人です、先般お別
れした時同様、聊かも本國の愛などにはかぶれてをりません。自分は連
戦連勝して、首尾よく羅馬の城門まで御軍勢を進めました。其間に獲得
した戦利品は優に此度の軍費の三分の一を償ひ得て餘りあると信じます。
さて取結びました和議は、アンチャムに取つて名譽であると同時に、羅馬
に取つては恥辱であります。で、（と進んで）こゝに羅馬の執政官並びに貴
族が署名し、元老院が奥印を捺したる所の訂盟書をお手渡しいたします。
と手に持つてゐる書きものを渡さうとする。

オーフ 諸公、それをお讀みなさるな。諸公の権力を甚しく濫用した叛賊ですぞ
そやつは。其罪を御詰責なさい。

コリオ (驚き呆れて) なに、叛賊だ? ……どうして?

オーフ うん、叛賊だ、マーシヤス。

コリオ なに、マーシヤスだ?

オーフ うん、マーシヤスだ。やい、ケイヤス・マーシヤス。汝はおれが此コライオ

ライで汝が強盜的に盗んでいつたコリオレーナスなんて名で呼び掛けるだらうと思つてるのか? ……(元老らに) 國家の元老たる諸公よ、彼れは不誠實にも諸公の信任に背き、鹽水二三滴のために、既に手に入つた羅馬を抛擲しました。はい、既に手に入つたのです、然るに盟約をも、決心をも、縷絹のやうに破つて、更に軍議にも及ばないで、おのが妻や母の、乳母涙に動かされて、泣ッ面になつて、大勝利を吠え消してしまつたのです。小わつぱもそれを見ちやア面を赤くし、勇士連も呆れ果て、只顔ばかり見合せてゐました。

コリオ (呆れて天を仰いで) 軍神よ、あれをお聞き下さい!

オーフ 神を引合に出すな、泣蟲小僧め!

コリオ なに?

オーフ もう言はん。

コリオ (憤激して) 量り知られん大虚言者! 汝のお底で此胸が裂けさうだ。「小僧だ! おゝ、奴隸めが! ……御覽なさい、諸公、自分がこんな口をきくのははじめてです。諸公閣下、賢明なる諸公は、辯ぜずとも此犬めの大うそをつきたることを承知であらう。おれが興へた筈の痕が死ぬまで奴の身を離れん以上、うぬが心になづねて、われながら大うそをつきたと思はんければなるまい。

オーフ イデヤス いきこむ。

貴一

(双方を制して) まあ〜! 双方ともしづかに!

コリオ

(いよく激昂して)「ザルサイの人々よ、さ、おれを寸々に切つてくれ！ 大人

も子供も、さ、おれの血で剣を塗れ！……「小僧」だ！ 大うそつきの獵犬

め！ 正しい記録があるなら、その記録には、鷲が鳩小屋へ舞ひ下つたや

うに、おれがおのれらザルサイ人を、このコライオライで羽ばたかせたこ

とが書いてあるんだ。それはおれ一個でやつたのだ……「小僧」だ！

諸公閣下……あなたがたは、あの穢はしい虚喝者が全く盲運でした手柄

を、鼻の先で述べ立てさせて、恥をかきながら、黙つておいでなさるのです

か？

オーフ

共謀者ら (聲を揃へて)「殺しツちまへ〜！」

此教唆と共に群民一齊に競ひ立つ。

群民

「寸々に引ツさいツちまへ〜！」、「すぐにやツちまへ〜！」、「あいつはおれの息子
を殺しやがった！」、「さうだ、おれのむすめをも〜！」、「あいつは、おれの従弟

責二

のマーカスをも殺しやがった。」「あいつはおれの父をも殺した！」

口々に叫びつゝ、コリオレーナスに迫る。

しづかに〜！……亂暴をするな……しイツ〜！ 彼れは立派な人物

だ。彼れの名聲は大地球を抱擁してゐる。わが國に對する彼れの最近

の罪科は公平な糾問を要する……さて、オーフィディヤス、平和を紊すやう

なことをするな。

コリオ

(齒がみをして)「お、あいつ、あいつの六人分を、あいつの一族ごとく〜」を
此劍で誅戮することが出来たらなア！

オーフ

無禮者めが、うぬ！

共謀者ら

殺しツちまへ〜〜〜！

共謀者ら一同劍を抜いて襲ひかかり、不意にコリオレーナス
を亂撃する。コリオレーナス倒れて死ぬ。

とオーフィディヤスが立ちかゝる。

一貴族

まてくくくく……

オーフ

諸公閣下、手前のいふことをお聴き下さい。

貴一

おゝ、タラス！

貴二

お前は勇士を泣かせるやうなことをしツちまつた。

貴三

これ、死骸を踏むまい。諸君、しづかにく。剣を収めなさい。

オーフ

諸公、こいつが生きてゐりやア、諸公に大きな危険があつたといふことが……彼れが原で、かやうに人々が憤激に及んでる際にはお分りになりま
すまいが……お分りになる時が来りやア、こいつが斯うなつたのを必定お
喜びなさるでせう。諸公、どうか手前を元老院へ呼び出し下されたい、
すれば手前は諸公の忠誠な臣僕であることを證明します。でなくば、どん
な嚴罰でも受けます。

貴一

死骸をあつちへ運んで、哀悼の意を表しなさい。式部官にいひつけて、
曾て灰甕にをさめられた古今の最も尊貴な死屍の前例に則つて、鄭重な葬
儀を營ませるがよろしい。

貴二

彼れも随分粗暴であつたから、強ちオーフィディヤスばかりを咎めるわけに
はいかない。最善の方法を取つて後始末をしませう。

オーフ

(獨語的に) 怒がしづまつたら、悲くなつた……死骸をかきあげる……武官
の最も主立つ者三人の手が借りたい。おれが其一人になる……君は太鼓
を打つてくれ、いかにも悲しさうに……お前たちは其槍を引摺つてくれ。
彼れは此市で大勢の後家や子のない親をこしらへて今日が日まで歎かせ
てゐるとはいへ、葬式は立派にしてやるべきだ……手傳つてくれ。

コリオレナスの死骸をかき荷ひつゝ、葬式のマーチのうち
皆々入る。

コリオレーナス終

大正十一年十月五日印
大正十一年十月十日發

行 刷

(製複許不)

附與スナールオリニ
錢拾五圓貳金價正

譯 者
發 行 者
印 刷 者

東京市牛込區余丁町百十四番地
坪 内 雄 藏
東京市牛込區辨天町百五十七番地
種 村 宗 八
東京市牛込區櫻町七番地
渡 邊 八 太 郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部

(振替口座東京二二三番)

刷印社會式株刷印日



文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第七編)

テムペスト

この作は沙翁の絶筆といはれてゐる。それにしては巻末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマंचチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

(六版) 寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁傑作集 (第八編)

アントニオ・オポトラ

沙翁の偉大なのは其作の彌々出でて彌々傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて、全世界に君たらんが、熾烈なる肉の戀愛を全うせんかといふ大デレンマに達著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

(六版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京早稻田 達田

文藝學博士坪内逍遙譯

沙翁傑作集 (第九編)

眞夏の夜の夢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醉乎として醉な作である。先づ「テムペスト」に似たものだとはいへるが、若し時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろ／＼な妖鬼が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。入妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。艶情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

(五版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁傑作集 (第十編)

マクベス

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化したやうな名篇である。或は「ハムレット」以上「オセロ」以上「リヤ王」以上と稱せられる。わが國へ來た此劇の活動寫眞ばかりでも三種以上あつた。譯者、脚本及び上演の略誌を添へた。本編には附録として譯者が日本に於ける沙翁研究、譯書とも、其年順書名、譯者名、發行所の名を明かにし、其上演に就いては、其年月、外題、譯者、俳優、劇場まで詳記してある。沙翁研究者の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

(七版) 三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 早稻田大學出版部 東京早稻田 達田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十六編)

お氣に召すま

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。読む者も自然と暢氣な晴々とした心持になる。「牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

沙翁傑作集 (第十七編)

おぢく馬劇

沙翁立身前後に流行つた、フランス仕立の思ひ切つて變から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは翻案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いものから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 牛 込 早 田 達

坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十八編)

十一夜

既刊「お氣に召すま」の姉妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男装してゐるのが同違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌、出てて彌、無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戯謔の上乗である。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

全 六 冊 完 成

イブセン傑作集

四六判美本
口繪數葉入
各書圓十錢
郵稅各十錢

1 島村抱月譯	人 形 の 家	4 坪内士行譯	小さいアイヨルフ
2 島村抱月譯	海 の 夫 人	5 坪内士行譯	野 鴨
3 坪内士行譯	ロスマルスホルム	6 坪内士行譯	ヘツダ・ガブラー
島村民藏			

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 牛 込 早 田 達

選者

坪内逍遙
饗庭篁村
幸田露伴
島村抱月
水谷不倒

校訂新釋者

水谷不倒

(訂正再版)

各卷目次
申込次第進呈

近松傑作全集

近松に關する空前の大著!

本書の選者たる五大家が近松文學精通の權威たるは言ふまでもなし。不倒氏が夙に意を近松研究に注ぎ、研鑽到らざる所無く、近松通を以て一世に推さる、事は茲に啖々するを要せず。五大家は幾多の研究討議を経て精を抜き粹を集め四十餘篇を選定したり。是等諸作中には非凡の傑作なるに拘らず全く後世に忘れられ、其原本の如きも殆ど全く湮滅して僅に一本を傳へたる珍品も尠しとせず。校訂、解題、註釋、挿繪及び五大家の序論等近松研究として些の遺憾なし。

菊全四卷各引索全
別卷四圓壹引索全
註釋に別卷四圓壹引索全
挿繪・裝美別卷四圓壹引索全
圖挿・裝美別卷四圓壹引索全
二圓挿・裝美別卷四圓壹引索全
百餘圓挿・裝美別卷四圓壹引索全
引索の釋註に別卷四圓壹引索全
一引索の釋註に別卷四圓壹引索全
錢八拾稅郵・錢拾七圓壹引索全
錢拾稅郵・錢拾貳圓壹引索全
錢四拾五稅・圓拾貳卷全

日本近現代文藝の精華!

東京大學出版部

終